

平成29年

豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会

12月7日

豊明市議会

豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会  
会議録

平成29年12月7日

午前10時00分 開会

午後1時49分 閉会

1. 出席委員

委員長	杉浦光男	副委員長	村山金敏
委員	富永秀一	委員	後藤学
委員	郷右近修	委員	清水義昭
委員	近藤ひろひで	委員	蟹井智行
委員	宮本英彦	委員	ふじえ真理子
委員	近藤善人	委員	鵜飼貞雄
委員	毛受明宏	委員	近藤千鶴
委員	早川直彦	委員	山盛さちえ
委員	月岡修一	委員	近藤郁子
委員	三浦桂司	委員	一色美智子

2. 欠席委員

なし

3. 職務のため出席した議会事務局職員の職、氏名

議会事務局長	石川晃二	議事課長	鈴木美智雄
議事担当係長	水野美樹	議事課主事	荻正幸

4. 説明のため出席した者の職、氏名

なし

5. 傍聴者

なし

午前10時開会

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 定刻に御出席をいただきまして、ありがとうございます。

定足数に達しておりますので、ただいまから豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会を開会いたします。

本日の傍聴については、申し合わせに従い15名以内とし、委員長において一般傍聴者の入室を許可します。

これより本日の会議を開きます。

さきの講演会で、議員定数・報酬に関するアンケートを実施しました。集計結果が取りまとめできましたので、本日机上に配付いたしました。取りまとめをしました早川委員並びに御協力をいただきました委員の皆さん、御苦労さまでした。

アンケートの集計結果について、早川委員より簡潔に説明を願います。早川委員、お願いいたします。

○早川直彦委員 資料ナンバー12のアンケートの集計表について説明させていただきます。

アンケートの用紙の配布は、参加者51名に配布しました。配布したアンケートの中で、回答者が34名となっております。

1 ページ目の、議会報告会が初めての方が15名で、44%ほどを占めているのかなということ。

また、2 番目の性別として、30人の方が男性、男性の方のほうが圧倒的に多かったということでもあります。

年代的に見ると、3 番目の年代ですが、60代、70代、80代を足すと30人、約88%の方が60代以上というふうになっております。

ページをはねていただいて、2 ページを見てください。

6 番目の議会報告会についての部分ですが、34より数字が多くなっている理由は、重複している、2 つ丸を打ってある方がありましたので、重複しております。

7 番目の議会報告会の感想や意見、提案などについては、定数・報酬の部分も若干書かれておりますので、お目通しください。

8 番目の議員定数については、ふやす、現状維持、減らす。減らすが19、ふやすと現状維持を足すと13なのかなと。減らすのほうが若干多いのかなともとれます。その理由については、ふやす、現状維持、減らす、それぞれに分けてその理由をまとめてあります。

ページをはねてください。

また、ふやす、減らすと答えた方の具体的な人数もそれぞれまとめてあります。

9番目の報酬についてです。報酬についても、ふやすが5、現状維持が13、減らすは7となっておりますので、ふやす、現状維持を足せば18というふうに読み取ることができるんじゃないかなと思います。

また、その理由についても、右側のページ、5ページのところ、ふやす、現状維持、減らす、わからない、無回答と、それぞれの意見をまとめてあります。

具体的な金額についても書かれている方の部分をまとめてあります。20%減という方と、800万から900万というふうには回答された方もいますので、見てください。

最後の6ページ目です。

定数・報酬について、お聞きになった考え方、考え方は変わりましたか。21名と変わらなかった方の意見が多かったのかなということです。それぞれの理由についても、変わった方、変わらなかった方、無回答の方をまとめてあります。

11については、講演についての感想についてまとめさせていただきました。

簡単ですが、以上で説明を終わります。

**○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）** ただいま説明のありましたアンケートの集計結果について、資料ナンバー12として、本委員会の資料とすることに御異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

**○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）** 御異議なしと認めます。本委員会の資料といたします。

それでは、お手元に配付いたしました議題に従い会議を進めます。

1、議員定数・報酬についてを議題といたします。

本特別委員会は、平成28年10月の緊急議会で設置して以来、1年余にわたり調査をしてまいりました。その以前には、定数・報酬分科会で基本方針などを作成していただき、本委員会の指針となりました。

初めに、本市のこれまでの定数や報酬の経緯と他市の状況を調査しました。続いて、定数や報酬を増した場合、現状維持の場合、減した場合のメリット、デメリットについて整理をしました。また、その解消方法についても意見交換を実施しました。

さらに、愛知学院大学の小林教授をお招きし、住民自治と議会をテーマに講演を行っていただき、市民とともに学習することができました。7月には広聴会を開催し、市民の声をお聞きし、アンケート調査も実施しました。11月の講演会においてもアンケート調査を実施しました。

このように、いろいろと調査等を重ねてきました。本特別委員会として1つの結論を導きたいと思いますが、よろしいですか。

(異議なしの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 御異議なしと認めます。

それでは、議員定数及び議員報酬について結論を導き出すことといたします。

採決をする前に各委員の考えを述べていただき、採決をします。

採決は、議員定数についてと議員報酬についてを分けて行います。

初めに、議員定数では、定数を増するか、または現状維持とするか、これは減らさないということを意味します。それと、議員定数を減ずる考えの2択とします。ここを繰り返しますと、減らさないというほうは……。

(発言する者あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) ごめんなさい。減らさないというのは、ふやすか現状維持かということの意味ですね、減らさない。それから、減らすほうは、減らすと。だから、2者ですね、二者択一という意味であります。

次に、どちらかの結果が出た場合に、具体的な数について順次諮っていきます。ここでは、現在の定数より遠いほうから諮りますので、よろしく願いいたします。遠いということの意味は、減らさないというほうとして25と出ましたら、25が一番最大でしたら、そこからだんだんと20に近づけて諮っていきますよと。それから、減らすというほうが多かったら、この減らすということについて、15というのが一番少ない数字でしたら、15から順番に諮って行って、20に近づけていきますと。よろしいでしょうか。そのこのところ、お間違えのないようお願いいたします。

私が今申し上げた採決の方法は、これでよろしいですか。

(異議なしの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 異議なしと認めます。

(異議ありの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 異議あり。

○富永秀一委員 採決の方法はそれでもいいのかなとは思いますが、その前に、要するに今から意見を聞かれるわけですね。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) はい。

○富永秀一委員 それは、だから、いわゆる討論みたいな感じで聞くのではなくて、一応意見は聞くんだけど、採決にいきなり入るのではなくて、しっかり討議も行ってほしいなというふうに思います。つまり、討論として、もう最終結論を言いました、それで言

いっ放しで、それぞれ終わりではなくて、要するに討論をしっかりとった上で、十分話し合いが終わったら採決という形にさせていただきたいなと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ちょっと待ってくださいね。ちょっとごめんなさい。委員長としてもちょっとイメージしにくいので。

要するに、最終、最後の結論を出すときには、皆さんに一人一人、最後の自分の考えを言っていただいて、そのときに数字も言っていただけると、先ほど皆さんに了解をいただきました、現在の20よりも遠いほうから諮っていくということが出来ますね。数字を言っていただかないと、どこから諮っていったいいかわかりませんので。それまでに、今、富永委員の言うのには、一人一人はその討論のつもりで、自分の最終の意見として申されているわけですが、それまでに討論というんですから、委員間討議のような意味ですかね。

○富永秀一委員 そうすると、今お聞きすると、杉浦委員長は、いきなり皆さんに討論のようなものを求められるのかなと思ったんですけど、要するに、その討論の一步前に、要するに意見をそれぞれに聞いて、要するに討論というのは別に全員がやる必要はないじゃないですか。ですよ、本当は、委員会においては。ですから、意見は全員に聞く。で、それで討議をする。それで討論という、だから普通の手段をとっていただければいいんですけど。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そういうことね。わかりました。そうすると……。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） だから、今の意見をもう一度確認しておきますね。ほかの皆さんにも聞きますが、各個人がずっと最終の意見を述べられるのは、これはもう言うなれば個人の最後の討論という意味だと思いますが、それまでに、その自分の考えをより固めるというか、言うなれば、ほかの人の意見も聞いて、自分の考えをまとめるというか固めるという、そういう意味合いで申されておるといことですよ。ほかの人も意見も聞くという意味でしょう。

○富永秀一委員 そういう意味。はい。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） わかりました。

じゃ、皆さんにお諮りいたします。よろしいですか。今、言葉はちょっと違いましたが、私その意味をちょっと理解するには、委員間討議のような形、お互いに意見を出し合っ、意見を出し合っ、そして最後に自分の意見を固めて一人一人に言っていただくという、そういう流れになるわけですね。それでよろしいですね。ちょっと違う。

ひろひで委員。

○近藤ひろひで委員 2点確認させてください。

委員長が言われる、個人がそれぞれ述べるというのは、数字を言っていたきたいというふうに言われましたけれど、それはもう採決のときに意思表示をすれば私はいいと思うんです。採決のときに、ふやす、ふやさない、いわゆる減らす、減らさない。で、採決でどちらかになったときに、そこで改めて数字の提案が個々の委員からあれば、それを諮ればいいと、私はそういうふういきょうの委員会に臨んでいるんですけど、そういう意味じゃなくて、個々に聞かれたときに、具体的に私は30ですとか、私は12ですとかというふうにしてその時点で表現するのでしょうか。

それと、もう一点は、それをお聞きしたいのと、もう一点、今、富永委員が言われるのが、委員間討議を求めてみえるのであれば、正式にやっぱり諮っていただかないと。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そうですね。もちろん。

○近藤ひろひで委員 委員間討議というのは否定できないということでもありますので、そういう意味でおっしゃっているのか、ちょっと確認していただきたい。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それじゃ、1つからいきます。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 富永委員。

○富永秀一委員 私がそのように、普通的手段とは違う形で申し上げたのは、今、杉浦委員長がおっしゃったやり方だと、いきなり全員に討論を求められるような雰囲気であったので、そうすると討議をする時間がなくなるので、あえて、フライングぎみですけど、こういう手順でというふうに申し上げたということで、実際に討議を必要だと判断するのは、全員が意見を言った後というタイミングになると思いますので、そこで諮っていただければ。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 委員間討議をして、考えも変わるかもしれないということもあるので、委員間討議で皆さんの意見を聞いて、その後、じゃ、個々人、やはり誰がどういう考えを持っているかというのも、やはり聞いていったほうがいいと思うので、その後、個々人の意見を拾い上げて、最後、採決という形、流れではどうなんでしょうか。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） もう一度聞きますね、富永委員。その言葉は使っていないが、委員間討議とするならば、個々の意見を述べられる前に、委員間討議、やらんといかんですよ。

○富永秀一委員 個々の意見というのは意見であって、討論ではないはずなんです。討論ではないはずなんです。だから、個々の全員の意見はまず聞いた上で、そこで、要するに……。

(必要であればというの声あり)

○富永秀一委員 そういうことです。で、その後、いわゆる普通の討論。

(討論、採決の声あり)

○富永秀一委員 という通常の順番をやってもらえればということですけど。

(発言する者あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) いやいや、ごめんなさい。考えておるのは、議事を進める上において。

もう一度聞きますね。ごめんなさい。要するに、皆さんの意見をお互いに出し合って聞くということですね。

○富永秀一委員 全員。まずそれでしょう。

(発言する者あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 全員に。

(個々に聞いての声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 個々に聞いて、それから。

(発言する者あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) ちょっと、ちょっと。

じゃ、5分間休憩いたします。

午前10時16分休憩

午前10時22分再開

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) ただいまから会議を続けて行います。

今、副委員長と進行について確認しました。皆さんの御意見も聞きながら、副委員長と決めさせていただきましたので、決めさせたって、まとめさせていただきましたので、今から申し上げます。

今から全員に意見を聞いていきます。そして、その後に、先ほどの続きで、委員間討議という言葉を使った部分と使わなかった部分もありますが、使ったものと理解して、委員長としては理解をして、その後に委員間討議をします。いいですか、繰り返しますよ。一人一人に意見を聞いていきます。そして、その後に委員間討議をします。そして、その後



に討論をします。討論は、全員がするという事じゃなくて、そこで討論をしたいという人にやっていただければ結構です。討論をする。そこまで来ると、討論が終わりますと、自分の意見はほぼ固まります。確実に固まります。その後に、固まったところで採決をします。その採決は、減らすか減らさないかの二者択一でいきます。

○山盛さちえ委員 増、現状維持、減の3択で採決をとっていただきたいと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） だから、今申し上げました……。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 今、私が言いましたように、もう一度繰り返しますよ、これ大事なところだから。一人一人に意見を聞きます。その後、委員間討議をします。その後、討論をします。その後に採決をします。採決する場合には、減らすか減らさない、それで、減らさないというほうは、現状維持と、あるいはふやしたいという両方が入ります。20人でいいよという人と、21人でいいよと、22人でいいよという、そういうふうに、減らさないというほうはそれも入ります。だから、私が最初に申し上げた二者択一というのはそういう意味であります。そこで採決をします。二者択一で採決します。この方法でよろしいですか。

（異議ありの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） まだ異議あり。

○山盛さちえ委員 だから、その最後のところを、ふやす、現状維持対減らすという2択ではなく、ふやす、現状維持、減らすの3択で採決をとっていただきたいと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ほかに。

○富永秀一委員 とりあえず、採決をとる方法はそこで考えればいいと思うんですけど、そこまではとりあえずいきませんか。採決の方法は……。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そこまでというのは、採決の前までという意味ですか、富永委員。

○富永秀一委員 そうです、そうです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それじゃ、私が申し上げておかないかんののは、なぜ私はここに固執しているかという、例えば議事を可決する場合は過半数必要ですので、20名ですよ。3択でやりますと、8・8・4となった場合に、極端な場合ね、決まらないじゃないですか。過半数と。過半数だから、10必要なんです。だから、そこが一番私は……。

鵜飼委員。

○**鵜飼貞雄委員** 非常に重要なこれは議題であると私は認識しておりますので、もしそう  
いった形で過半数とれないようであれば、またそのときに改めてまた話し合いし合えばい  
いんじゃないでしょうかね。なので、3択である必要があると思います。

あと、もう一点、ちょっとお願いしたいことがあるんですが、例えば個々人の意見を聞  
く。その後、委員間討議をする。僕は、その後にもう一回、個々人がどういうお考えをし  
ているのかというのを改めて聞きたいと思います。なぜかという、これは非常に市民の  
皆様も関心を持たれていることだと思いますので、やはり最後、どっちで手を挙げたとか  
ではなくて、個々人がどういう意見をちゃんと持ってこの場に臨んでいるかというのを示  
す必要があると思うんですよね。なので、僕は、委員間討議があった後にもう一回、皆さ  
んのお考えは一人一人聞くべきだと思っています。

○**豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）** 今、私がさっき申し上げ  
た流れに従って、異議のある御意見が出たのは、採決のときに3択でやってくれというこ  
とと、それから今、鵜飼委員のほうからは、委員間討議をやった後に、もう一度個々の意  
見を聞けということでしたので、皆さんにこれは諮ってみますので、最初、皆さん一人一  
人に意見を、委員間討議の前に一人一人に意見を聞いて、委員間討議をすると。そこま  
ではよろしいですか。

（異議なしの声あり）

○**豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）** そこまでは御異議なしで  
す。

じゃ、その後に、委員間討議をした後に、ここまで来ると、皆さんの考えが大分固まっ  
てきますね。深まってきますので、そこから直接討論に入ってしまうんじゃなくて、もう  
一回個々の意見を聞けというのが鵜飼委員の話ですね。なので、委員間討議の後、討論に  
直接入るか、もう一回一人一人の意見を聞くかと、この2つあるわけですので、聞いてい  
きます。

私が最初申し上げたように、直接そこで討論に入っていいか悪いかと。討論でよろしい  
よという人は挙手願います。

（賛成者挙手）

○**豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）** それじゃ、その後、鵜飼  
委員が申し上げたように、もう一回一人一人の意見を聞くということに賛成の方、挙手願  
います。

（賛成者挙手）

○**豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）** 多数です。

そうすると、そこで一人一人の意見が最終的にここで固まりました。その後に、総括的な討論をしますか、討論。まだ採決していないので、個人個人の意見は固まったけど、全体としてまだ変化するかもしれません、個人個人の考えが。くどいようですが。

(要らないの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 要らん。

富永委員。

○富永秀一委員 要するに、討議をした後にもう一度全員に聞くのであれば、それは全員に討論をしてもらうという意味だと思いますので、そこでさらに聞く必要はないと思います。

それから、一応、先ほどから委員間討議というふうに申し上げていますが、そもそもこの特別委員会でこうやってやっているのが討議なので、だから、改めてそこで、ここから何分か区切って委員間討議ということではなく、要するに討論に入る前に全員の意見を聞いた後に、しっかり討議をしましょうということです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 今また御意見いただきましたが、繰り返します。委員間討議の後、もう一回皆さんに御意見を聞いて、これが討論、一人一人の最終の討論というふうにしてよろしいですか。それが終わった後に採決に入りますね。御異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。じゃ、そこまでいきます。

委員全員に、まず第一歩の意見を聞いていきます。

それじゃ、大きい会派からいきますので、指名しましたら思い切り言ってください。

宮本委員。

○宮本英彦委員 自分の考えを言うのね。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） はい。

○宮本英彦委員 基本的には、人数でどれだけだと問われたら、今の段階はやっぱり15と私は思っています。ただし、全員が合意というか、納得できるのであるなら、私はその議論に参加をする気持ちはあります。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 後藤委員。

○後藤 学委員 私も、現時点では15人にすべきだというふうに考えております。その理由は、これまでの議論の中で明らかになっているように、減員した場合のデメリットはい

いろいろありますけれども、それに対する対策は講じられると。これは具体的なことを言っていると長くなるので、省きますけれども。

(発言する者あり)

○後藤 学委員 じゃ、要点だけは言っておきますけれども、例えば委員会の構成が難しくなるというような意見がありましたけれども、私は兼任するとか、あるいは委員会を2つにするとか、そういう方法で十分対応できるというふうに思います。

それから……。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） エキスを手短に言ってください。

○後藤 学委員 あと、人数が少なくなると市民の意見が反映しにくくなるというような意見も、デメリットの指摘もありましたけれども、議会が直接市民の意見を聞く場をもっと設ける、市民が参画する工夫をすれば、それは克服できるというふうに考えておりますので、議員定数が減ることによるデメリットはカバーできるというふうに考えております。

それから、現状を見ても、この近隣でも、例えば大府市とか、それから日進市、人口比では十分、豊明市が15人になると変わらないような状況で今やっておられる。それから、この新しい手帳を皆さんもらわれましたけれども、これで大阪府なんか見ると、例えば交野市15人、人口7万7,860、豊明市よりも人口が多いのに15人でやっている。藤井寺市14人、人口は6万5,899ですので、豊明より少し少ないですけども、議員も14人と少ない。そのほか、大東市とか松原市とか河内長野市とか幾つかの市で、人口比で見れば、明らかに豊明市の15人を人口比で超えるというのか、要するにクリアできるような議員の数の設定をして、今ちゃんとやってみるところもあるわけですので、私は十分できるというふうに考えております。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 富永委員。

○富永秀一委員 議員定数削減は議会改革ではないという考え方は、7カ月前と基本的には変わっておりません。いろんな方のお話を聞いて、ますます強化をされているということです。議員の数を減らすということは、当局に対する力を減らすということであって、権力集中を招き、政策への多様な意見の反映、政策を提案する力を落とすことになると考えます。

前期においては、議会内の対立であったり、議会对市長の対立が目立って、市政が停滞していたと思います。これは何とかしなければいけないと多くの市民が考えておりました。私もそのうちの1人です。そして、市議会議員選挙において、同じように考えていたであ

ろう多数の方が立候補して、定数20人に対して35人も立つという異常事態になりました。そして、一般的には、多数が立てば、知名度ですとか組織がある現職が強いと考えられる中、新人が8人も当選した。これは民主主義が正常に機能した結果だと思えます。

先日の議会報告会の講演で小林教授は、議会が機能していないからといって定数を削減してしまえば、市民の声を行政につなぐ手段を減らしていくことになる。行政とのバランスを欠いてくると。議会が機能しないなら、市民の力で機能するようにするべきではないかといった趣旨のお話をされました。全くそのとおりだと思います。そして、賢明な豊明市民は、前回の選挙でそれをなし遂げたと思っています。

前期までの議会を私がよく知っているわけではありませんが、議会の力が、内部の対立ではなくて、市民にとってよりよい市政の実現を目指す方向に向いていると思います。前期までをよく知っている方々からは、今期はよくやっているという声もいただきます。

私は、前期において、大きな定数削減を訴えたり、それを支持した方々も、その目的は、議会の力を落とすことではなくて、ある意味ショック療法で正常化を促したかったのではないかと思います。そうだとすると、今はショックを与えなければならない議会ではないと思います。

地方分権によって、当局の権限が強化されてきています。平成12年4月1日に地方分権一括法が施行されて以降、権限が市町村に移譲されています。これまでに45項目、今期になってからでも、市町村立専修学校だとか各種学校に係る設置、廃止、認可であったり、認可外保育施設に対する立入調査など6項目が豊明市に権限移譲されております。力を増していく当局に対して、市民を代表してチェックを行い、政策提言を行っていくためには、議員はむしろふやしていかなければならないと思います。

7カ月前にも申し上げたように、山梨学院大学の江藤教授が言っておられる、委員会の人数は七、八人が適切であるというのは、実感としてそうだと思います。ですから、当市の場合、3常任委員会で21人、議長を別として22人あたりが適切であろうと思っております。

ただし、定数をふやすには、2つの条件を満たさなければ無理だと思っております。

1つは、今、地方政治の専門家の方々の間では、定数削減ではなくて、重要性が増している議会の役割をしっかりと果たしていくためには、場合によっては定数増を検討すべきだという考え方が主流になっていることが、市民の皆さんにも理解されることです。先日の小林教授の講演でも、行政改革と同じような文脈で議員を削減するべきではない。市民が決めるべきこととはいえ、市民の声を行政につなぐ手段を減らすリスクがあることをお話しされていましたが、先日の講演だけで市民の理解が十分深まったとはとても言えないと

思います。

もう一つの条件は、議会が当局からの提案を適切に修正したり、適切でなければ拒否をしたり、当局のあり方を規定するような条例を制定したり、積極的に政策提言したりという、今、地方議会に期待されている役割を十分果たして、しかも、そうした働きを市民の皆さんに伝える努力をして、十分理解されることです。

これらがある程度達成されない限り、定数をふやすことに対して多くの市民の賛同を得ることは難しいだろうと思います。ですから、今回は現状維持として、来期は議員の数をふやしてと市民に言っていただけるような議会になることを目指すべきだろうと思います。

先月の全国市議会……。

(発言する者あり)

**○富永秀一委員** もうちょっとだから。

先月の市議会議長会フォーラムで、佐賀県の伊万里市議会の前議長さんがおっしゃっていた、二度と削減を突きつけられない議会を目指した、そのお言葉が印象に残っております。私はこの気概が必要だと思っております。

現状維持だと、せっかく議論をしてきたのに意味がないではないかという声もあるかもしれませんが、私はそんなことはないと思っております。これまで続けてきた議会の力を削減していく動きにはっきりストップをかけて、来期以降、時期が来れば数をふやし、力をつけていく、その反転のための大きな意味のある現状維持だと思っております。

**○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）** 委員間討議の後の、また2回目の討論の内容にも近づきますが、場所がありますので、皆さん考えて、ひとつよろしくをお願いします。

ふじえ委員。

**○ふじえ真理子委員** じゃ、簡潔に。

私は、議員定数について減らしたいという立場です。

先ほど後藤委員の中で言われたこととダブるんですが、私は、もともとは全体の小さな行政、小さな政府に方向としては行くべきだという考えがあるので、議会も、議会は今、推進協でいろいろ改善を重ねている、その方向性はきちっとわかりやすく市民に示していくことで、減らすことと同時にやっていかなきゃいけないのは、先ほど言った市民が直接参加する仕組みを整えていくこと。私ぐらいの年代が子どもから大人になっていく時代は、どんどん富の分配だったんですけど、今は人口は減っていく、負担を、痛みを分かち合っていく時代にある中で、それは議員も職員も、それに伴う努力は必要だと思っているから

です。

減らすこと、個々の議員の力をつけていくこと、つけていくべきだという考えで、私も今、15人というふうに思っています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤善人委員。

○近藤善人委員 私は、この委員会が始まった当初は現状維持でいいかなという考えだったんですけども、いろいろ広聴会とか報告会の市民の方の意見を参考にすると、やっぱり減ではないかという結論に達しました。

デメリットの解消方法として、後藤議員言われたように、委員会を兼任するとか、委員会を2つにするということで、デメリットの解消はできるのではないかということで、減ということで、人数についてはちょっと答えが出ていません。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 毛受委員。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ああ、そうか。順番、どうぞ。鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 じゃ、第2会派ということで。

今、これで約1年間、皆さんでいろいろと、協議会であったりとか委員会であったりとか、いろいろと発言してまいりました。私も正直、今の現時点、今の時点では迷っているところはあります。かねてから申し上げているとおり、世論の風潮であったりだとか等々を鑑みると、定数減という考えもなきにしもあらずかなというのは変わっていません。ですが、先ほど富永委員の話にもありましてとおり、議会の機能の低下を招くのではないかということも考えると、現状維持もあるのではないか。そういったところで、今はまだ、ごめんなさい、結論としては悩んでいるところであります。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 毛受委員。

○毛受明宏委員 私は、結論からいいますと現状維持なんですけど、本来でいうと、いろんな考えがあると思うんですけど、私は委員会構成が7・7・7の本当は21というところも考えがあるんですけど、ふやすことというのはなかなか難しい。ということで、現状維持ということで、議会運営をしっかりとしていけばいいのかなと思っておりますので。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤郁子委員。

○近藤郁子委員 正直、鵜飼議員が言ったように、迷っているところでもあります。なぜかということ、市民の代表として民意を反映するためにということ望んでいらっしゃる市

民もたくさんいらっしゃる。それと、あと、人数が少なくなることに對して、市民の意見とかを伺うと、チェック機能を果たすのでいいんじゃないかと。だけど、機械のように、議会がチェック機能だけするような議会であっては、それが、ましてや市民直結の市議会にあっては、それがいいのかどうなのかということに関しては、なかなか私は、少なくして、それが機能できるかどうかということもすごく不安に思うところです。

そして、直接参加をしてもらえばいいじゃないかというふうについても、今回の、今までの議会報告会、その議会報告会のあり方にも問題があるかもしれませんが、現在では本当にたくさんの方々に参加をいただけていない。それを思うと、削減をすぐにしてしまうということに関しては、責任を持って決めることはできないなというのが今、現状です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 三浦委員。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 大きいほうの会派から順番に行っておりますので、申しわけありません。

○三浦桂司委員 きょうは、きょうの時点、今の時点です。現状維持だと思います。

法が改正されてから、この議員定数削減論というのがどうしても、本当に市民のためを思っている、社会的弱者の人を思っている議論なのか、または選挙に利用されているのではないかという感は否めません、正直。確かに、私たち議員は4年に1回、選挙という形で市民から洗礼を受けます。こう言えば自分の選挙に有利だというのはわからないでもありませんけれども、先般、15名の議員という陳情に対して、これは9月です。今、先ほど、そこに賛成した方が、その15名の陳情の重みをどう捉えるのかというのを今聞いていて、3カ月たてば変わるのか、じゃあ、また3カ月後にはまた違うことを言うのか、またという思いが今ふつふつと湧きました。

だから、前にも言ったように、現状維持の立場ですが、人口減少、アセットが始まれば、市民の人をお願いをする時期が、負担をね、来ます。もっと言えば、小学校の統廃合なんかが始まる時は、このときは議員定数削減を主張します。

以上です。人数はまだ言いません。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 清水委員。

○清水義昭委員 結論から先に言うと、きょうの今ここに臨むまでの段階としては、20人という結論で一応臨んでいます。というのは、その20人というのの意味が、現状維持という意味ではなくて、全国平均、この人口の全国平均ですと21.3人というのが出ています。委員会構成も、私も7人が3つというのが望ましいというふうに考えていますので、そう



すると21人。ですけれども、議会報告会なんかのアンケートでもありましたけれども、減らしたほうがいいんじゃないかという御意見がありましたので、21人をベースにしたところから1つ減らして20人、そういう意味での20人ということで、今のところ結論を出しています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤ひろひで委員。

○近藤ひろひで委員 約1年間、皆さんの意見をいろいろ拝聴して勉強になりました。現時点では、現状かどうか、ちょっとまだここでは申し上げられません。

私も、さっき後藤……。これは委員間討議になっちゃうかもしれません。私も、全国の各市町、全部平均して出してみました。地域性があるんですね。大阪、京都の近辺は、すごくやっぱり人口に対して議員数が少ない。例えば、九州とか日本海側へ行くと、非常に人口に対して定数が多いと。この間の全国市議会旬報の中でも、5から10万人未満の市です、市でいうと、全国に258あって、21.3という平均が出て、データとして出ています。だから、多い少ないというのは、その平均にそろえるという意味ではありませんが、後ほど意思を決定したいと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 村山委員。

○村山金敏委員 それでは、私は、今、当市の現状を見ますと、先行き人口減、それと少子高齢化、どんどん進んでおります。とりあえず、要望もかなり多いものですから、私は今、現時点では、市民の声を反映するというので、現状がいいかなと思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 次は2人の会派、公明党いこうかな。一色委員。

○一色美智子委員 いろいろさまざま、本当に参考になりました。でも、議員の人数だけのことを考えるのであれば、本当の改革を考えるのであれば、増もあるのかなというのを思いました。現段階では非常に迷っております。減もあるのかなって思います。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤千鶴委員。

○近藤千鶴委員 私は、先日の議会報告会での先生の講演とか、市民の方のアンケートを見ると、減もありなのかなというような今思いをしております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） じゃ、2人の委員だから、こっちはどうか、今度。山盛委員。

○山盛さちえ委員 私も減で考えています。皆さんおっしゃったこととかなり重なるので、余り言われていないところということだと、2回とったアンケートの、減員してほしいというその理由を見ると、やっぱり議員の仕事ぶり、議会の役割、機能が十分ではないと

いう、そういう感想を持って、削減してもいいんじゃないかという声が残念ながら一番多い。それしかないぐらいに多いというところから見ると、十分その役割が果たせていないのか、果たせているけれども届いていないのか、どちらにしても私たちの努力不足ということはあるというふうに判断いたします。

そういうふうに今市民が見ている中で、私は減が、やっぱり市民参加という点からいくと削減すべきだというふうに思いますし、デメリットの解消策も十分にあると。私たちが努力をする形を市民に見せるということが今一番重要だというふうに考えているので、削減です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 早川委員。

○早川直彦委員 私も削減の立場であります。ほかの委員の方も言われていますが、デメリットの解消法を行えば十分解決できる部分が多々あります。また、市民に、前期と変わって、議会報告会なり御意見を伺いますということもやっていますが、さらに積極的に市民の方と接する機会を設ければ、デメリットは確実に解消できると思いますので、私としては減らすということです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 月岡委員。

○月岡修一委員 蟹井さん、会長なので。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ごめんなさい。代表である蟹井委員、ごめんなさいね。蟹井委員。

○蟹井智行委員 私は、過去の定数が多いときの様子を知らないですし、それから、後藤委員言われるように、15人にしたときのイメージも当然つかめないで、ふやしたり減らしたときのことがよくわかりません。富永委員言われるようなことももったもんだというところで、現状、今迷っています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 月岡委員。

○月岡修一委員 私は、長い経験から、さらにみずから定数削減をしてきた経験からいって、やはり3常任委員会は7名平等に配置をすべきであろうと。したがって、どうしても22名という、議長を入れて22名という、これは一貫した私の姿勢であります。

それにあわせて、議長として2年半、いろんな方とお会いしてお話をさせていただく機会がありました。一貫して、山盛議員や後藤議員が言うように、誰が要らない、あの議員は要らない、この議員は要らない、そんな話は一度も耳にしておりません。やはり耳にするのは、今、今期は本当によくやっていただいていると、よく頑張ってもらっていると。ということは、20名の議員を評価しているということですね。その中で、誰々さんは要らないよと、あとの議員はいいよと、そんな話は一回もありません。そういったことは、

やはり的確に皆さんが真摯に受けとめるべきじゃないかなと。みずからは必要な人間であり、誰かは要らない、そんな理論はまかり通ることはあり得ませんし、私はやっぱりそういう市民の評価というのは本当に真摯に受けとめていく。

したがって、22名ということを一貫して言ってきましたが、その意見が通りそうもない状況ならば、もう少し考えながら最終的にまとめたいと思っております。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 郷右近委員。

○郷右近 修委員 定数に関しては、これまでお話ししてきた立場どおりです。現状20名に対して、定数をふやすべきというふうに考えています。

具体的な数字でいいますと、ここを目指すべきという目標のようなものまでは、自分で考えは固まっていませんが、現状よりも市民の意見をより反映させられるように、努力の過程や、あと住民の皆さんがそれに合意していただけるというふうな合意形成の過程なども含めれば、一度に大きく目標値にステップするという状況は余り適切ではないように思っています。なので、直近の削減の幅であったと思うんですけど、22名にふやすということが適切なのではないかなというふうに思っています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 一人一人の御意見をお聞きしました。一人一人の御意見、先ほどのお約束でいきますと、もう一回最後の討論、最後の1人の討論の場があります。そういうことも考えながら、今から委員間討議ですが、委員間討議ということ富永委員が言われたということで、目的及び論点をちょっと言っただけだとありがたいです。

富永委員。

○富永秀一委員 いわゆるそういう、例えば何かの議案とかのときの委員間討議というふうにしなくても、そもそもこれが討議の場なんだから、討論の前に討議の時間をとってくださいということです。ですから、その時間を区切ってどうこうということではなく、討議をしましょうということです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 私は委員間討議という、議案の場合の委員間討議というイメージがありましたが、今、富永委員がそういうふうに申されましたので、諮ります。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 委員間討議であれば、今、30分以内というふうには決まっているんですけども、こういった場合は委員間討議ではないというふうに規定づけられるとされた場合、例えば、じゃ、目安としてどれぐらいの時間をやるのかというのを決めていただいたほう

がいいと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 御意見ありますか。

○村山金敏委員 であれば、その討議をするかしないか、決をとらんといかんと思います。委員間討議でないということだから。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 一人一人の意見を言っていて、いろんな論点だとか、いいですか、皆さん一人一人が言ったときに、論点だとか、また目的、そういうものがある程度浮き彫りになっております。そのことを踏まえて、委員会間討議とするか、それとも、先ほどそれは、そのことはなぜ私は言うかという、3番目にやりますよといっても、明確ではなかったもので、今言った委員間討議のような形でやるか、それとも、富永委員が再度言われた、ここでより深めるために、みんなで意見を出し合って討議するかという、その2者が出ております。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 私の考えだけでいきますと、今までこの1年間の間、協議会、委員会、再三にわたりやらせていただきました。今も皆さんの意見を集約することもできたと思うんですが、その討議、今、委員間討議という言葉では出ていませんので、討議をするというのであれば、論点がどういうところなのか、それをお示しいただいて、それに対してやるかやらないか、採決をとっていただければいいのではないのでしょうか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それと、今出た意見、隠れた部分も含めて、時間はやっぱり有限なので、ある程度時間の問題も考えて発言していかんと、ただ討議すればいいなら、いろんな問題を出せますわね。1日でも2日でもできることになります、話し合いというだけなら。ですので、委員間討議ならば30分という、最大、最高30分というめどがあって、目的、論点、ある程度はつきりしておく。それとも、単純に話し合いということであれば、いつまででもいつてしまうという可能性もないとは言えない。その辺のことも含めて、的確な判断をしていただきたい。

富永委員。

○富永秀一委員 どうもやっぱり時間を区切りたいという声もありますので、私は普通に、今後、皆さん、御意見いかがですかでいいと思うんですけど、どうしてもということであれば、委員間討議を求めたいですが、ちょっと休憩後にしたほうがいいのではないかなと思いますので、まず、ここからまた30分とかいうと長くなるので。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） わかりました。いろいろまだきょう決めることがありますので、合理的に進めたいと思います。

5分間の休憩です。

午前10時59分休憩

午前11時6分再開

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 休憩を解き、会議を続けます。

それでは、いろんな御意見が出ましたが、委員間討議というような形で、ようなど言っておりますが、時間も30分以内、それから目的及び論点については、皆さんの個々の意見の中である程度明確になったというふうに私は考えますが、この提案者の富永委員、御意見をお願いします。

○富永秀一委員 私はやっぱり、普通に御意見を伺いますでいいと思っておりますけど、でも、時間を区切ってという話も出ておりますので、委員間討議をお願いしたいと。テーマとしては、適正な議員定数についてでいいと思います。

（発言する者あり）

○富永秀一委員 だって、そういう会なんだから。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） わかりました。きょうの会議そのものが、枠のはまっておる会議ですので、内容についてね。そのつもりでお願いいたします。

御意見のある人。

富永委員。

○富永秀一委員 皆さんの御意見を伺った中で、私は現状維持ということを最終的に表明させていただきましたけど、やはり皆さんの意見の中で、例えば今後人口減少になるからとか、小さい政府を目指すべきというような、小さい行政を目指すべきという話もありましたけど、現実としては、市長も人口増を目指しておりますし、現実には少しずつふえておりますし、我々も人口、まだ少なくともしばらくの間は増を目指していくべきだろうと思っております。

また、先ほどもお話しましたように、権限はどんどん移譲されてきておりますので、全部で850項目ぐらいあるんですけど、全部が全部市に行くわけではないですけど、まだまだこれからも権限移譲は行われていきますので、力としてはどんどん行政のほうは持っていくますので、それに対してしっかり対峙していくためには、議会はやはり人数が十分必要であろうというふうに思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか御意見のある人。

○富永秀一委員 もう一個ある。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 続けてください。

○富永秀一委員 それから、例えば広聴会であったり報告会での御意見というのは、なかなかたくさんの方の一般の、要するに政治に余り関心がない普通の市民の方々からの御意見という形に残念ならなかったと私は思っています。すごく著名な講師が呼べればよかったんですけど、そうすると相当程度、一般的な人も来るかなと思いましたが、前にいわゆる削減の運動をしていたような方が多かったので、かなり偏ったアンケートになってしまっているなというふうに私は思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか御意見。

山盛委員。

○山盛さちえ委員 皆さんの御意見を聞いていると、委員会の構成員が七、八人ぐらいがいいんじゃないかというような御意見、それで3常任委員会だとするとという感じがまあまあありましたので、1委員会七、八人を維持するということであっても、3常任委員会ではなくて2常任委員会だったら、別に削減しても委員会の審査は十分できるわけだし、今の7が例えば8になれば1人ずつふえるわけですし、そんなふうに考えれば、削減しても影響はないんじゃないかなというふうに思っています。

あとは、資料請求をしたり、事前の下調べができたり、そういうことをする時間を委員会の日程の中で十分にとるとかね、そういうような、あと、当局の資料も積極的に出してもらっていただけたら、今、議会基本条例の中で、そんなようなことも一生懸命話し合っているところなので、さまざまなその情報をきちっと議員あるいは市民が手にするような仕組みができること、それから、3常任委員会を例えば2常任委員会にするなどすれば、議会力が低下するということについてはかなり解消するんじゃないかなというふうに私は思うんですけども、その委員会の人数と2常任委員会あるいは3常任委員会のことについて、ちょっと意見が深まったらいいなというふうに私は思っています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 清水委員。

○清水義昭委員 私、先ほど3常任委員会で、おおよそ7人ぐらいが望ましいんじゃないかという意見を出させていただいたので、私の意見を申し上げるんですが、例えばこれが、常任委員会が2つになったとすると、そこが7人、7人というわけにはいかない。要するに、常任委員会が1つ減って2つになったとすると、私の考えとしては10人から11人ぐらい要るのかなと。それぐらい議案のボリュームもありますので、そういうような形として私は捉えています。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 山盛委員。

○山盛さちえ委員 今、消防のことがたまたま議案にもなっていて、きのうもちょっと消防長といろいろ説明を聞いていたときに、消防のほうの予算の部分については半分以下になる、3分の2ぐらいなくなるぐらいのイメージだというふうに説明を受けたんですね。そうすると、建設消防委員会の中の消防がすごく小さくなって、その消防は、かつての総務、かつてというか今でもそうですけど、総務の部分の予防とか、そこかなりひっついてくるというふうに考えると、そうすると建設だけが残ると。今でも建設委員会の審議時間、議案の数というのはそんなに多くないものですから、それを思うと、今のままの3常任委員会を継続していくというのは、ちょっと逆に不均衡になるんじゃないかというふうに私は思っています。そういう意味からも、今のままを2つに分ければ、7よりも10要るとするのは、ちょっと違うかなというふうに思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤郁子委員。

○近藤郁子委員 今、私が迷っているところは、今、山盛議員がおっしゃった、デメリットは解消できるんじゃないかというふうなことをおっしゃっていましたがけれども、デメリットの部分は解消できても、メリットにはつながらないと、つながっていないというふうには思います。

もっと議会がやってほしいということは、この前、自主防災の連合会の方がおっしゃったように、もっともっと議員がやってほしいことというのを市民が多分思っている。その連合会の方は、今回の議会報告会とかこの基調講演にはいらっしやいませんでしたので、そういった方々の意見は今回も聞けていないというふうにも思っていたりもするんです。

なので、議会というのは、もっとやることを、議会改革というのは、市民にとって、もっと近づいているんなことをすることだろうというふうに私はずっと思っておりますので、デメリットを解消することだけが減に直結する理由になるというのは、私はどうも賛同できないというふうに思っています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 先ほどの富永委員の発言を聞いて、ああそうだなと思ったことが1個ありました。やはり後退していくというありきで我々は今後進むのではなくて、やはり我々議員、議会の責任、責務というのは、前進していくこと。これから、やはり人口であったりとか税収であったりだとか、増加していこう、ふやしていこうという目標を立てて、そっちを目指さないといけない部分もあるのかなと。なので、今も6万9,000を今後7万1,000までプラス2,000していこうという、そういった形でも今、市長を初め当局も動かれている

わけで、そういったところでも、我々の仕事というのは、そっちの方向に向かっていかないといけないのかなということも1つ、すごく強く思いました。

また、議会報告会でも、やはり参加される方は偏っています。当然、ニュートラルな意見を持っている方が多く参加していただければいいんですけども、やはりそうではない、偏っている形になっているのではないかなと。よく市民の方から話を聞くんですけど、我々議会は何をやっているかわからない、やっぱりその仕事の不透明であるんですよね。なので、そういったあたりは今後情報発信とかを我々も積極的に行って、進んでいかないといけないのかなというふうにちょっと今思いました。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 今の論点は……。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ちょっと待って。だめだめ。

（発言する者あり）

委員間討議ですので、目的と論点が明確でないといかん。その論点に向かって皆さんが意見を出し合うということですので、僕は委員会の運営をしておりますので、お静かに願います。

それで今は、委員会の構成、それからデメリットの問題、それに仕事をひっかけて、議員としての仕事をひっかけて、そのあたりが言うなれば論点になっておりますので、余り離れないようにひとつお願いします。

清水委員。

○清水義昭委員 委員会の構成のところに戻っていいですかね。委員会の構成なんですけど、例えば議案が承認されれば、消防は広域化になると。そうすると、議員の中から議選でも3人、一部事務のほうに行く。そうすると、今までやっていた豊明の消防以外のところにも当然意見するとか、議論をするというようなことになって、非常に重たいというふうに私は思っています。3人、ちょっと大変だなというふうに思います。

それプラス、消防のところは、ほとんど市の議会としての議論からなくなったとしても、時代がどんどん変わっていますので、例えば機構改革の案で出てきていたような、例えば情報の関係が係から課になるかもしれないですとか、例えば子どもの関係だとか高齢者の関係のところのその部署が再編されるかもしれないというようなことがありますので、委員会の構成にもよるんですけども、これから、今までの常任委員会とは違った構成になって、また議案のボリュームだとか種類も変わってくるだろうというふうに私は思って、



3 常任委員会で7人ぐらいというような形の意見です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 三浦委員。

○三浦桂司委員 大切なのは、豊明の将来をどう考えるかと、財政をどうやって強化していくかということで、議員定数というのは、確かにここにおられる、次回も選挙に出られるという人とともに、次回以降、この豊明市をこうしたい、ああしたい、それにはこういう案がある、知恵があると、そういう人たちが選挙に出る目を残しておいていかないという部分もあります。それは私たち議員の、現職の責務だと思います。意見は違っても、能力ある人が出やすい環境を整えておくと。

仕事をしない議員がいるので、議員を減らすという先般意見がありました。小林教授とちょっとお話しさせていただいておりましたけれども、仕事をするように仕向けたらいいんじゃないですかと、これはずっと教授が言っておられました。そのときに質問者がおりました、どうやってという回答がありましたが、まさに仕事をするように仕向けたらいいんじゃないですかと、仕事をすればいいんですよと、教授の言葉は胸にすこんと落ちました。

人数的に、だから何名がいいという答えはありません。ありません。だから、現状維持、私はきょうの時点では現状維持だと先ほど言いましたけれども、これは、これからの経済状態、右肩上がりに上がっていくのか、またリーマンショックみたいな感じが起きたら、これは世間でまた議員も減らせという風潮になって、我々がなびいてしまうのか、それはきょうの時点ではわかりませんから、きょうの時点では現状維持と言った、私は思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 後藤委員。

○後藤 学委員 委員長から、今は委員会のことが焦点というようにお話でしたので、委員会のことに関して言いますけれども、議会改革協議会の中でも出ていましたけれども、委員外発言、かつては盛んに行われておりました。ずっと以前になりますけれども。

それで、私たちも傍聴していて、思わず意見を言いたくなっちゃうようなことがあるんですよね。せっかく委員会で審議していて、ほかの人たちが傍聴しているのに、そういう人たちの意見を今まで取り上げて、発言の場を与えてこなかったと。これ、当局のやっていることをチェックする、議会がチェックしていくというんだったら、議会も総がかりでやるべきだと思うんですよね。委員会の委員だけじゃなくてね。ほかの人の委員ももっどんどん発言できるような、そういう運営の仕方をしていくべきだというのが1つ。議員に関してはそういうこと。

それから、先ほど市民参画を促すべきだというようなことを言いましたけれども……。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 静粛にお願いします。

どうぞ。

○後藤 学委員 例えば市民に委嘱して、その委員会に、市民が10人なら10人、無作為抽出でも何でもいいですけど来てもらって、それで、この委員会の審議を聞いてもらって、意見も言ってもらって、その後で採決をとるといような、採決権はないですけども、委員会の討議を、審議を聞いて意見を言う権利のある市民を、議会が委嘱して来てもらって、そういう市民の考えも参考にするというのも1つの案だと思うんですね。

実際に、これと同じようなことを事業仕分けのときにはやっておりました。当局側が事業を説明して、それで専門家がそれに対して鋭い質問をする。それを無作為抽出の市民が聞いていて、賛成か反対か旗を上げるという、手を挙げるだったかな、というように形で、市民の感覚を行政の判断の中に生かしていくというようにやっていたので、議会もそういうこともやったら、これは具体例の1つですけども。

そういう形で、議員の数が必ずしも多くなくても、民意を反映した議会というものは、私は運営していくことができるというふうに思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほかありますか。

早川委員。

○早川直彦委員 済みません。じゃ、私のほうから。委員会のことでちょっと発言させてください。

消防が広域化されて、常備消防費、消防の款の中では大半が少なく、すごくボリューム的には、総務の部分の消防しか残らなくなりますので、軽くなるのかなと来年度からは思っております。

日進以外にもやっているところもあるんですが、予算と補正の委員会と、あと残り常任委員会、例えば2つだったら2つに分ければ、かなりその予算と補正の部分は、例えば人数、例えば予算と補正を全員でやるとかといえば、かなりのボリュームは審議できて、あと条例の変更の部分が常任委員会になるのかなという方法もありますので、委員会の構成の仕方によっては、人数を減らすことも可能なのかなと。あとは意見を述べやすくもなるのかなというふうにも考えますので、その委員会の構成によって随分変えられるんじゃないかなというふうに思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ひろひで委員。

○近藤ひろひで委員 私、先ほどまだ決まっていないというところで、さっき、ある議員が大阪府の、後藤議員が大阪府のことを言われました。私も大阪府、調べてあります。議員定数が18から20の市町が7つあります。人口が71万あって、7で割ると約10万1,000人。

で、20から22の市が5市あります。で、同じく平均すると11万で、18から22の市を平均しますと10万5,000なんですね。だから、うちは7万弱なので、大阪のほうは議員定数が少ないというようなところになると思います。

ただ、例えばですが、広島でいうと、18から20が4市、20から22が2市、最初の4を平均しますと3万3,000、次の22までだと3万9,000、トータルで6市あるわけですが、18から22の議員を持つ市が平均すると3万5,000ということで、やっぱりいろんな地域性があって、私は一概にこの定数に対して定義というのはないと思います。だから、先ほども申し上げたように、全国平均で市だけで21.3という数字が出ているので、これはある程度が目安なのかなと。愛知県は、ちなみに、ほぼ平均値に近いですね。21.3まではいかないですけど、平均値に近いです。

いろいろ理由を考えると、いわゆる政党色、政党色がいろいろ影響しています。京都も少ないです。京都は大阪ほどではないですけど、やっぱり公明党さんとか共産党さん、公明党さんは別に減じゃないかもしれないけど、いわゆる共産党さんが多いとかね。

郡部のほう、郡部というか日本海とか、青森、東北地方を平均すると、大体3万から4万ですね。うちの議員定数20に当てはめると、3万から4万ぐらいの市がほとんどです。

だから、いろんな議論がある中で、定数というのは根拠が私自身が示せないの、歯がゆい思いをしているので、今、参考にしているところという、全国の市議会旬報に出てくる数字というのがある程度が目安なのかなというふうに思っております。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか。

ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 委員会の構成のことで思ったんですが……。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 続けてください。

○ふじえ真理子委員 委員の人数が減っても、個々の、自分も含めて、個々のまず議員の力が今100だとしたら、それを105、110、120、個々にレベルアップすること。で、議員個人だけじゃなくて、委員会の中で、もちろん委員会の提案、行政側に言っていく。個人じゃなくて、委員会として行政側にも提案、チェックももちろん、あと提案をしていく委員会、あと市民に出向く委員会として、市民の団体の声を聞いたり、委員会としての動きをやっていけば、その人数が各委員会10人、11人という数でなくても、十分それはできると思います。

委員会、人数が減ることによって議会の力が弱まるじゃないかという懸念に関しては、

個々の議員のレベルアップ、自分も含めて努力と、努力していくことでも、議会、少なくともやれるじゃないかというふうに市民に見せられる議会を目指していきたいと思っていますし、今、そういう本気度が試されていると思いました。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 委員間討議ですので、お話をしておる人の意見をよく聞いて、反論なり賛成がありましたら、どうぞ深めてください。

宮本委員。

○宮本英彦委員 若干体調が不十分ですので。

私、15名と言っておるんですけれど、人数は早い話、10名でもいいし、何名でもいいんですよ、私の本音は。結局、私が言いたいのは、人数が多ければ議会の力が弱まるかと、そういう人数じゃない。早い話が、やっぱり議会としての機能がきちっとしておれば、私は、それぞれの議員さんがその働きに応じて、きちっとその職務を遂行しておれば、私は人数はいいと思うんです。

これはもう完全に私だけの個人的な見解というか、個人的な考えなんですけれど、やっぱり私が今まで四十数年間働いてきた経歴からいくと、非常にもっと働いてもいいのかなというふうには思いますけれど、いずれにしても、人数じゃなくて、いかにして議会として、あるいは議員としての機能を発揮するかということに力点を置けばいいと。

ただ、この人数を、じゃ、どうやって決めようかというときには、これは私は、やはり過去の、豊明には豊明の経過がありますので、そういう削減の経過というのものもあるし、そのことに関しては市民も一定程度知ってみえますので、今現在はその昔の前期の議会じゃないということははっきりしていますけれど、やはりそういう経過があったということ踏まえれば、何らかの形で対応しておくべきかなというのが私の考えです。

その人数がどうなるかというのは、私としては可能な限り、やはりこの20人が全会一致で、この人数でいくというふうに決められるものなら決めたほうがいい。で、それがやはり難しければ、採決でやればいい。可能な限り、私自身としては、全会一致でこの人数に決めましたと。決めたら決めたで、それ以上ぐずぐず言わないと。やっぱりそんなルールというか、そんなふうになればいいなというのが私の思いですね。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 論点がちょっと広がっておりますが、なるだけ明確にして、よろしく。

郷右近委員。

○郷右近 修委員 委員会構成のお話で少し意見を出したいと思います。

議会全体の中から常任の委員というものを設定して、選任された委員の方が、その決め

られた分野で議案などの議論に当たると、審査に当たるとのことだと思っておりますが、基本的には似通った意味合いを持つ分野をまとめて、幾つかの委員会を構成してきていると思っております。

その中で、これまでよりも議員の数が減っても、さまざまな工夫、委員以外の議員の発言であるとか工夫を持って臨めるのではないかというふうなお話が出ているんですけれども、基本的には委員会の構成は、その市町の現状なりに合わせて、先ほども申し上げたような1つの委員会としてまとめて差し支えがないんじゃないかというふうな分野に枠が決まると思っております。今、議論している議会としての機能を落とさないというふうな観点から、委員会の区分をそれに合わせて再構成しようというのは、本来のあり方とはやっぱり違うんじゃないかなという点を感じるものです。

具体的に言うと、豊明市では、市の情勢からいけば、農業とか漁業のような分野は、恒常的に余り市の中で議論になかなかならない状況が続いていると思います。だから、他の分野と一緒に、1つの委員会のような格好で扱われていますけど、それが独立して扱われなきゃいけないような情勢のまちだって、全国的には幾つもあると思っておりますね。

そういったことからすると、豊明市の現状からいけば、市の現状からいけば、教育や福祉に関する部分は、今、その2つが1つのくくりにはなっていますが、本来的にいけば、もっと委員会構成を適正にする必要を考えて分けるとか、そういう目線で委員会の構成というのは考え、また、そのための議論のあり方とか委員の数とかというのを考えていくというのが本来のあり方じゃないかと思うので、ちょっと今さまざま出ている意見と比べてみると、ちょっと違うんじゃないかなというふうには私は思っています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 山盛委員。

○山盛さちえ委員 今の郷右近委員の話からいくと、その所管する事務というか、それがいろんなものをひっつけて1つの委員会にしてしまうのではなくて、できるだけ、款ごとにとまでは言わないけれども、ある程度近いものをまとめいくというような、そういう委員会構成、所管事務の分け方がいいんじゃないかという御意見だったとすると、それが皆さんが必要なことだと、そのほうが議論が深まって、監視機能も強化するというのであれば、それはすればいいと思います。今の3常任委員会を4常任委員会にしても別に全然構わない。私が議員になったときは4常任委員会だったので、それでもいいと思います。

ただ、その常任委員会に最低7人は必要だということであれば、1人の議員が2つの委員会に所属すればいいというふうに思います。それは、自治法を改正してできるようにしたわけですから、できることならばすればいい。それで議論を深めていけばいいというふうに思いました。

それから、もう一つ、委員会の人数が減ったり、構成が変わったりすることを少しでも補完しようというのであれば、本会議質疑のありようを変えるということも1つあります。みよし市については、本会議質疑に回数制限はないというふうに伺いました。ですので、委員外の人が本会議の中で十分に争点を明らかにしたりとか、議論を表面化した上で委員会に臨むというような仕掛けもできるわけですから、委員会だけに頼らず、議会全体として議案の一つ一つをしっかりと審査するというような取り組みは十分にできていくというふうに思います。

委員会を2つ兼任するという、本会議質疑とセットで議案を深めるという、その方法をとれば、定数を維持あるいはふやすという理由はなくなってくるというふうに思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 37分。30分という約束です。なので、もうあと1人、短かったらもう2人。

富永委員。

○富永秀一委員 前回も、本当はこういう議論は前回もっとやるべきだったのではないかなと思うんですけども、前は余り議論が盛り上がらなかったんですが、そのときにも申し上げましたが、いろんなデメリットの解消法というのがありますが、これはやはり対症療法的なものであって、人数が減れば、やっぱり全体として力が落ちていくことは、それは否めないというふうに思います。

それから、清水委員が指摘されたことは重要で、確かに建設消防の仕事、この場では減るかもしれませんが、結局、尾三のほうで全体を見なければいけないので、議員がやるべき仕事としてはかえってふえるのではないかなというふうに私は思います。ということです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 時間になりましたが、最後、どうしてもこの討論に加わりたいという人。いけませんよ。時間も見計らって。

それじゃ、郷右近委員を最後にします。よろしいか。

○郷右近 修委員 今、山盛議員も御意見出されたんですけど、確かにさまざまな議会の運営上の工夫で、これまで以上に議員が意見や審査の能力を発揮できる仕組みを進めていくことは重要だと思うんですが、それはあくまでも一定の議員の中でその力を発揮させるというふうな議会改革の方向性であって、やはり議員そのものが減っても、どう機能を維持したり強化できるかという問題とは別のことではないかなと。議員は議員として、市民の意見をしっかりと反映できるだけの力を持った定数を確保すると。その上で、既存の議会の運営のあり方が進歩すれば、さらに議会全体としての能力は強化されると。それは、

2つの問題はリンクはしてなくて、それぞれに存在する問題じゃないかなというふうに思っています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、時間が来ましたので、これで打ち切りたいと思います。まだ討議に加わりたいという方はみえるかもしれませんが、ある程度、個人の意見でしたら、討議をしてつくっていくというよりも、個人の意見でしたら、まだ討論の場がありますので、各個人の。そこで述べていただきたいというふうに思います。委員間討議を終結します。

それでは、次、各自の討論に移ります。

これも大きい会派からいきます。人数も言っていただけると、次へつなげる場合には割合ありがたいと思いますので、ひとつよろしく願いいたします。どうしてもまだ人数は最後の最後までちょっと、みんなの討論を聞かないと言えんという人は、それはいたし方ないですが、よろしく願いいたします。

宮本委員。個人の討論。

○宮本英彦委員 何言うんですか。討論。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 個人の意見。

○宮本英彦委員 個人の意見。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 討論だね。

○宮本英彦委員 討論ね。

私は、当初言ったように、やっぱり減にすべき、人数を問われたら15と。ただし、全員がそういうことで、全会一致で減が可能であるなら、その努力をすべきだと。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 次、後藤委員。

○後藤 学委員 私も、基本的には15人という先ほど申し上げた考えに変わりはありません。

1つ、いろいろ理由は申し上げましたので、同じことを繰り返しません、1つつけ加えるならば、先ほど全国平均云々というようなお話も出ておりましたけれども、豊明の市議会は、日本一の議会を目指すということでやっておるはずで、今、議会改革をね。だから、議会としてきちんと機能する、きちんと機能する議会をつくれれば、私は人数、15人でも十分やっていけると思っていますので、機能する議会をどうつくるかということをしっかり考えていくべきだというふうに思います。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 富永委員。

○富永秀一委員 私はやはり現状維持ということです。要するに、デメリットの解消をこうすればいいということは出ていても、結局それは、全体として議員の数が減れば当然減っていくというふうに思いますし、こうすべきではないかと提案されている内容は、たとえ現状維持であったとしても、それは今後目指していくべき、取り入れていくべき内容も多々あると思います。そうすると、現状維持であって、なおかつ議会の機能も高まって強くなっていくということができるのではないかなというふうに思っております。

時間制限がなければ、これもいろいろ言おうと思っていた、いろんな著名な方の御意見も御紹介しようと思っていたんですが、ちょっとだけ御紹介しますと、例えば先生だと、住民自治の根幹としての議会を作動すべく、その条件として定数・報酬を捉え、時には増加させることが議会不要論を克服する正攻法であり、そのことが住民自治を進化させるという御意見をおっしゃっております。

それから、明治大学政治経済学部教授の牛山教授は、行政改革の論理で、行革の論理で経費削減のための議員定数や報酬の削減で本当にいいのか。地方分権で拡大する自治体議員の責任は拡大されてきていると。そのような意見が、やはりいろんな著名な方の著作であったり講義録などを拝見しても多いので、それは私も全く賛成できますので、本当はふやすべきと思いますけれども、まずは市民の理解を得たい、議会がしっかり働いてそれを知らせていくということが先だと思いますので、まずはやはり現状維持というふうに考えます。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 私も最初、きょうの最初に述べましたように、議員定数は減らすべきだという考えです。

最初のきょうの全員の意見を伺っている中で、いろんな迷っている方も何人かいらっしゃいました。削減は主張したいんですが、もしこれで仮に、現状もしくはふやす、現状という形になってしまうというのは、私は、私個人的には15という主張はあるんですけども、それが19、18、17、16という、その15にこだわらず、その目指す、私が考えている目指すべき方向の議会に少しでも近づきたいという思いが強いので、そういう考えであります。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤善人委員。

○近藤善人委員 私も減なんですけれども、選挙を2回してきたわけなんですけれども、23年の初めてのときの、立候補したときの政策というか、定数減ということはずっとうたってきました。そのときに、受任者になっていろいろ何百軒も回った中で、減らすという人がほとんどだったんです。90%以上、100%に近いぐらいの人に署名していただいたもので



すから、市民派として出た以上は、市民の声を大切にしていきたいなということで、数は、私は1ないし2減という意見です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それでは、次の会派に移ります。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 先ほど冒頭で述べさせていただいた、減なのか現状維持なのか迷っているというところでありましたが、やはりここで結論を出さないといけないかなというところまで来ました。富永委員の発言された内容で結構、僕の意見が固まったところがあります。私としては、立場としては現状維持でいいかと。

どうしてかといいますと、やはり豊明市は前進していかないといけない。人口増、税収増、こちらに向かっていくべきであろうと。

委員会の構成についての発言も結構あったんですが、私は、その2つとかにまとめるとかというよりは、やはり分散して、ある程度専門性を持った委員会を設立して、そこで人数もそれなりに割いて、活発な意見をすべきであろう。ほかの自治体でいくと、産業系に特化した委員会を持っているところもあります。今の現状でいきますと、議員というのは、常任委員会、必ず1つ以上属さないといけないということがありますので、兼任することもあるのかなと思います。やはり専門性を持った議論、それを進めるためにも、郷右近議員もおっしゃっていましたが、それは深めていくべきではないでしょうか、そういうふうに思っております。ちょっと長くなります。

私も、議員になって2年半ちょっと仕事をさせていただきました。市民の少数意見が反映されにくくなる、定数を減らした場合ですね。当然そうです。やはり声なき声を聞くという、それも我々議員の仕事だと思っております。こういったチャンスが減るというのも、これは大きなデメリットだと認識しております。

講演会で小林教授もおっしゃられていました。削減ありきで議論を進めていくのは、それは危険性が伴うと。それは確かにそうだと思います。機能しないから削減、それはやはり論法としてはおかしいなと。これはずっと常々、聞きながら思っておりました。

仕事をしない議員がいるから削減をしろ、これもおかしいです。選挙というのは、必ずしも仕事をできる人間が当選してくるわけではありません。なので、こういったところからも論法としては、ずれております。これは、ですから私としては、これは理論としては成り立っていないと。

最後ですけれども、やはり議会の役割を果たすために、これ、定数減というのは必ずしも改革であるとは言えない。この言葉は心にぐさっと刺さりました。

そういったことも含めまして、私としては、今のこの形でも豊明市議会、円滑に回っております。ですので、現状維持という表明です。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 毛受委員。

○毛受明宏委員 私も、初めと変わらないんですけど、現状維持ということで表明したいと思っておりますけど、やはりいろいろ皆さん、20人もおれば、いろんな活動があると思います。例えば、私の地元でいうと、三浦議員がいて、私がいて、私を目がけて来る人もおれば、三浦議員を目がけてお願いしてくる人もいるし、そういう多様性があっていいんじゃないかなと私は思いますので、最低限、それはいろいろ多いほうがいいと思いますが、やはり最低限、今、現状維持ということで、ふやすのは難しいかなと思っておりますので、現状維持ということでお願いします。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤郁子委員。

○近藤郁子委員 いろいろと考えて、なかなか迷うところではありますけれども、今のところ私は、今、現状維持でいきたいというふうに思います。

その中で、議会、いろいろ皆さんの御意見を伺う中で、日本一の議会を目指すということは当たり前の話であって、それを目指さない議会はどこにもないだろうと。当たり前のことであって、それが、人数を減らすことでそれが可能かということ、人数が多いほうがいいに決まっている。たくさんの方がかかわるのがいいに決まっているというふうにも思います。

ただ、議会の働きは目に見えないだけというようなことだとか、まずもって今回、人員を、定数を削減しようというふうに言われた陳情の中には、財政問題と、あと議会が機能していないんじゃないかというふうな御意見があって、多分皆さん、住民の方々の、受任者の方々が署名をしていただいたというふうに思いますけれども、その財政に関しては、もっと議員が財政が豊かになるような活動ができるようになってほしいという市民の声をたくさん聞いてまいりました。

私、2回とも、選挙を3回やっているうちの、議員として2回選挙をやってまいりましたが、その都度こういった問題が上がっていますので、その都度、自分1人では決めずに、必ずたくさんの皆さんの御意見を伺っています。賛成派、反対派の方々も伺ってきましたけれども、それでも現状維持で、おまえの考えはどうだということで御説明をした中で、それで行けということがありますので、自信を持って、私、今まで皆さんの声を聞いてきたつもりで決めてまいりました。

それも含めて、日本一の議会を目指すのに、人数が減って個々にレベルアップ、今すぐ

レベルアップができていないかという点、今すぐレベルアップもできていない。そういうことを考えると、今すぐ減らして、日本一の議会を目指すというよりも、皆さんがたくさん意見を出してやるのも、今の段階ではそれが一番いいんじゃないかと。たくさんの方の皆さんの声を聞くのに当たっては、多数の人数が必要ではないかなというふうに、まだまだたくさんありますけれども、短く、大分長くなりましたけど、意見としては現状維持、減らすというのはある意味難しい、現段階では難しいというふうに思っています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 三浦委員。

○三浦桂司委員 同じことの繰り返しになりますけれども、条件付きの現状維持という立場です。

経験値以前のごことはよくわかりませんが、私が議員になるまでの議員定数は26名でした。平成19年の4月、統一地方選に選挙で出たんですけれども、この26名から22名に削減されたときで、私は22番目という順位で当選させていただきました。

1期目の途中で、議員定数が22名から18名にすべきだという議員削減の署名が出ました。いろいろありましたけれども、結果として20名の議員定数、現在の議員定数ですね、なってますけれども、支援者の方から、議員定数削減されたら、おまえが落選するんじゃないかと強く、強くというか随分心配されました。けれども、このときは腹を決めて、定数削減に賛成しました。

2度目に当選させていただいた直後、いつも選挙のときになると、議員定数だけが議会改革であるという雰囲気、これは押されてはいけないということで、その強い思いが出て、外部から見る市民の意見も大切ですが、現実に議会で働く議員の仕事内容や意見も尊重すべきだという視点も入れなきゃならないと。議員が十分な仕事をすれば、議員定数削減論は出てこないだろうと、そういう思いで、以前から協議していた議会基本条例を策定しました。若干、若干ですが、粗い部分も残りましたが、条例ですので、基本的方針さえ間違っていなければいいというのが今の議会基本条例です。

条例の18条に書いたのは、市議会が議員定数を改正するに当たっては、市の人口、面積、財政力等、等です。市政の現状と課題、将来の予測と展望を十分に考慮するものとする。そこには、議員なんか半分でもいいとか、議員不必要論を言われる方おりますので、市民感情だけに流されないために、仕組みづくりを条文にしたつもりです。

ちょっと本当に長くなりますけれども、確かに近隣の大府と日進は、人口比率から見て、豊明市より議員は少なく運営しております。しかし、お隣の東郷町は16名でやっております。大府と日進と豊明が違うのは、両市は財政力指数が1%を超えていて、交付税不交付団体として運営しているんですよ。交付税や補助金なしで、豊明市が両市と同じような

サービスを受けられるかどうか。それはもう受けられません。減らせばいいという主張だけではなく、さまざまな知恵が必要で、それにはある程度の議員が必要だと思います。

15名に削減するというのは現実的な数字ではないと私は思っております。財政力の強い市町、大都市を除いた市の人口、面積、財政力、先ほど来、ひろひで議員が言われておりますけれども、その点も鑑みれば、どうしても15名などという数字は出てきません。非現実的な数字じゃなくて、妥協できる数字を提示すべきというのが真摯な態度だと思います。

だけど、今の時点では現状維持と。ただし、市民の人に負担をお願いするときは、これは議員定数は削減すべきだというのが考えです。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 清水委員。

○清水義昭委員 私も最初の意見からは、討議しましたけれども、変わりませんでした。20人。ただし、これは現状維持という意味ではなくて、全国平均の21.3及び各常任委員会3つあるとして、そこが7人ずつということを鑑みて、そこがベストだろうとは思いますが、そこから市民の御意見なんかを考慮して20に減すると、そういった考えです。

ちょっと長くなりますけれども、今まで委員会なんかに入っていて、議案の審査をするために現地に足を運んだりします。現地に足を運んで、そこに例えば管理している方なんかいて、お話をするんですけれども、議員のレベルを上げるということをおっしゃられる方もおみえになりますけれども、ここに来た議員さんはいますかと言うと、1人いましたよ。お名前を挙げると、富永さん来ましたよとかというお話を聞きます。議員のレベルを上げるということは、議案の審査をするために現地に足を運ぶ、こういうこともレベルを上げることだと思います。今、現状の時点でレベルを上げたいとおっしゃって、レベルを上げれば人数を減らしてもいいと言っているけれども、実際に現地に足を運ばずに審査をするとか、そういう姿勢がある限りは、議員のレベルを本当に上げたいと思っているのかというところに若干疑問を覚えます。

最初に申し上げましたけれども、21、21.3というところがベースだとは思っていますけれども、そこから1人減らして20ということで、結論としては現状維持ということになります。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤ひろひで委員。

○近藤ひろひで委員 先ほど人数はちょっと申し上げられなかったんですが、今、この会議でも、皆さんがすごいいろいろな貴重な意見を言われるわけですよ、それぞれの立場で、それぞれの思いで、環境も違うし。だから、そういった意味でいうと、私は、どこがという、さっき平均と言いましたけれど、それはある程度の目安ですが、議員同士が切磋琢磨

する相手というんですかね、20人中、私が1人なので、切磋琢磨できるお相手の議員というのは19名おみえです。

そういった意味でいうと、私はやっぱり20、今思っているのは20です。ある議員がレポート、市政レポートで、働かない議員は要らないとか、何かおっしゃっていたのが残っておりますが、独善的な考えでいえば、自分だけの意見を言えば、自分の意見と違う人は要らないということになるのかもしれませんが、それぞれいろんな意見を持ち寄ってやって、切磋琢磨して、レベルアップというんですかね、市民のために動けるように、自分自身も議会全体もレベルアップするためには、現状の20でいいと思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 村山委員。

○村山金敏委員 それでは、私も、先ほど言ったとおり、現状維持でいいかと思っております。

今のこの議会、議員それぞれ、各氏、諸氏は、それぞれの仕事、例えば私がこう思うから、私と一緒に仕事をしなきゃいけないとか、そういうことではなくして、地元に着した議員もみえますし、市全体のことを考えてやっておられる議員もおみえになります。ただし、その中で、横着なりなんのしたりしている議員はいないはずなんです。そうすると、もう今の20名がいっぱいのところじゃないかなと私は思っております。ということで、現状維持ということで。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） じゃ、公明党、一色委員。

○一色美智子委員 議員定数につきましては、減らしたほうがいい、ふやしたほうがいい、現状のままでいいと、この間の議会報告にもありましたが、三者三様だと思います。これはもう永遠の議会の課題かなと思います。

少子高齢化を初め、多様化する社会に対して、住民の多様な意見を集約する必要性は、議会の重要な責務であると考えております。議員定数は、議会の組織構成の根幹となる重要な要素を占めておると思います。議員の定数は、行政改革や経費節減といった観点だけでは決められないと思います。人口、面積等に応じた住民の多様なニーズや意見を反映させることが大事であると思います。

非常に現段階、迷っております。迷っている状態で、増とか減とかというあれではないと思いますので、本日の段階では現状維持ということにさせていただきたいなと思います。今後、本市のアセットが始まったときなんかには、議員の削減を真剣に考えていかなければならないと思います。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。

近藤千鶴委員。

○近藤千鶴委員 先ほどから皆さんの御意見をお伺いした中で、最初の私の意見は減もあ  
りかなということでしたが、私は議員になって、本当に市民の声を本当に行政につなげる  
役割だという自覚を持って議員になりました。ですので、多様な意見を、本当に議員が市  
政に届けるための仕事をするには、やっぱりこの今の現状の人数は必要ではないかなとも  
思います。そして、減をすることが議会改革ではないということはあるんじゃないかなと  
思いますので、本当に今の時点では現状維持でいいと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 早川委員。

○早川直彦委員 私は……。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） どうぞ。

○早川直彦委員 私でいいですか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） いいよ。指名されたとお  
りにやってください。

○早川直彦委員 先ほど私、述べたとおり、減らすべきだというふうに思っております。  
先ほどは人数を言わなかったんですが、15人減らしても私はいいと思っておりますが、やは  
り皆さんの意見を……。

（15人減らすの声あり）

○早川直彦委員 15人に減らす。15人にするという事です。でも、皆さんと合意形成が  
できるんだったら、じゃ、何人だったらいいのかと。15人だけにこだわるのかといたら、  
やっぱり皆さんの意見を聞いて、変えられる部分があれば、減らすほうには賛成していき  
たいと思うんですが。

あと、議員の減らすことが議会改革じゃないという意見もあれば、それは議会改革だ  
という意見、これは三者三様ではないかなと思います。私が言いたいのは、やっぱり努力で  
きるところ、委員会の考え方も、減らすべきだ、現状維持だ、いろいろあると思うんです  
が、委員会の構成や、2つ兼ねるとか、そういう方法もあれば多様な意見も聞けるし、例  
えば休憩中に傍聴された方の意見を聞くとか、いろんな方法で、市民の声を聞く方法をや  
っている先進的な議会も多々ありますので、いろんな方法を考えれば、人数を今の状態よ  
り減らしても、市民の声を聞けないとか聞くことができないというものは解決できるとい  
うふうに判断しております。なかなか皆さん意見があると思うんですが、私は減らすこと、  
減らす必要があるというふうに考えております。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 山盛委員。

○山盛さちえ委員 私も、減らすという考えを変えることはできませんでした。

議会改革することが議員定数削減ではないというふうに言われました。確かに、それは一理あるというふうに思います。ただ、議会改革すれば、削減しても問題はない、あるいは今よりも議会の機能がアップさせることができるということは、いろいろ今まで勉強してきたてはっきりしています。

デメリットの解消策について意見交換をしましたけれども、じゃ、本当に委員会の数はどうなのか、委員会の構成員は何人ならば適正なのかというところまでやっぱり議論を深めた上で、やっぱりこうでなきゃいけないというふうに結論を導き出すのが本来だったろうというふうに思っていて、それぞれの考え方やデメリット解消策のようなものを出し合ったにとどまった討議であったというふうに、これは非常に物足りなさを正直感じています。

それから、もう一つ委員間討議をしなくちゃいけなかったのが、議員が減れば市民の声が反映しにくくなるのかどうかという点です。委員会の構成、議会の機能が弱くなるかということと、市民の声が反映させにくくなるかと2つの問題があった、大きくいえば2つの問題があったと思うんですが、市民の意見のことについての議論ができていません。

議員がたくさんいると、知恵がきちっとそこに反映されると言いますが、知恵を持っているのは議員だけじゃないです。市民の方たちも、いろんな経験をして、たくさんの専門性や経験を議会に生かしてくだされば、行政に生かしてくだされば、議員だけが決定権を持って、あるいは議論だけするということにはならないというふうに思っていますので、いろいろ駆使していけば、改革を進めていけば、議員定数を削減しても何ら問題はないというふうに考えます。

もう一つ、富永議員が言われました、改革をすればもっと議会の機能が強化するではないかという点ですけれども、確かにそれもそのとおりですけれども、じゃ、どこまでお金をかければいいのかということになってまいります。まずは、現状維持派が多いので、現状維持でできる程度の議会の質であったり機能であったりが担保できればいいということであれば、機能が上がれば削減しても問題はないというふうに私はなると思います。

そのようなさまざまな理由から、議論不足も含めまして、私は削減しても何ら問題はないというふうに申し上げておきます。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 蟹井委員。

○蟹井智行委員 結局、いろんな意見があると思います。どの意見に賛成するのかという

ことだと思しますので、私は富永委員の意見に賛成しています。ですから、現状維持でいきたいと思えます。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 月岡委員。

○月岡修一委員 私が議会改革を徹底的にして日本一の議会を目指すと申し上げたのは、きょう御出席の20名の議員の皆さんの前で申し上げました。したがって、私は、この20名の議員の皆さんの力を総結集すれば必ず日本一になれると確信しておりますので、この中で1名でも2名でも減員するという考えは全くありません。

そして、基本的には自分の経験の中から、理想的なのは22名とはじき出しましたが、皆さんの御意見を伺いますと、現状維持がベターかなと思っています。先ほどから常任委員会の件とかいろいろありますが、そんなことはいつでもできることで、今やはり申し上げたいのは、議会改革の渦中において、それぞれ実力をつけていく。それはもう当然、そういう時代になっていくと思うんですね。議員一人一人の皆さんの能力が高まっていく、そういうことがなければ、やはり日本一は難しいと思えますので、そういうことも含めてのことです。私はそれも乗り越えた上で現状維持ということに申し上げたいと思えます。

委員長、聞こえていますか。よろしいですか、委員長。聞こえてない。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 御無礼しました。

郷右近委員。

○郷右近 修委員 ふだん議員として活動させていただいておると、さまざまな方とお話をする機会があります。もちろん、市の事業についての意見を伺うこともあるんですけど、実際に自分が議員になってみて感じるのが、私は自分では、今の社会や政治に対しての立ち位置というのを割と明確に語っているつもりがあるんですけど、それでも、その個々の政策について、私がお示ししている見解とは全く重ならなかったり、真逆ですらあるような市民の方でも、私にぜひ自分の意見を聞いてほしいとか、あと、場合によっては、こういう意見を言っていた市民がいるよということで、担当の市の課の人に伝えてほしいというふうにも言われる方がいました。

そういったときには、やっぱり議員は全体の奉仕者であるべきという意味合いをしっかりと務めるべく、自分の考えとは全く関係ないような主張や真逆の主張であってもお伝えをするようにしてきているんですけど、実際なってみて、そういった例がこんなに多いものかなというふう感じた2年間、2年半なんです。その分野も、経済的な分野から市の学校のこと、あと私たち議会のあり方についてまで、いろんな分野でそういった方がおり



ました。

そういった経験からすると、今の豊明市の市民の皆さんの政治参加や市の行政への参加について、20人という議員のあり方が適正なのかといえば、不足しているんじゃないかというのは、経験上でも感じておるところだったんです。

もう一つ補足すると、先ほど申し上げた、議員は、もしくは公務員は全体の奉仕者であるべきという意義と同時に、現状の社会のあり方が、一定の経済の仕組みとか制度の中で、全員が幸せになれるとは限らないけど、できるだけ多い人が幸せになれるようにという努力のもとで、ある決め事とかを決めて運営していると。ただ、それで不利益をこうむったり害を受けるような方なんかも少なからずいて、そういった方の権利を守るという役割も私たちにはあると思っています。

とりわけ、そういう方が少数であっても、みずから議員から探し出すぐらいで、その意見を拾うために活動することも重要ではないかという意味では、やっぱり議員の数が一定の市民の数に対して少なくなると、先ほど申し上げたように、さまざまな意見の方の意見をやっぱり反映する必要がどうしても出てきてしまって、特定の今の社会の仕組みや経済の仕組みの中で苦しい思いをしている人の意見に立ち切れなくなるという課題がどんどん大きくなってしまうと思うんです。

そういう意味合いを含めて、少なくとも市民のさまざまな立場や意見を、その立場に立って、実際の政治や制度に反映させるという意味合いでは、より多い定数で、単なる意見を抽出し、それを議論の土台に上げるだけではなく、その権利を保障する、同じ立場に立ち切るという意味合いからも、定数はふやすべきではないかというふうに思うわけです。

先ほど22名というふうにお話ししたのは、そういった今お話ししたような意味合いも理解、そして賛同し、あと、一有権者としても、参画をより強めていく自分たちの代表の議員だというふうな送り方の権利であるという理解を深めていただきながら、現状をより進歩させていただくという上で、ステップしながら進んでいくのが重要ではないかと思う立場から、いきなり例えば26名とか8名のあるべき姿に飛ぶのではなくて、努力を積み重ねながら権利を大きくしていくことが重要という意味合いから、22名というふうにご提案をした次第です。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ありがとうございます。

全員の方に討論をしていただきましたので、次は採決に移りたいと思います。

その前に、私が申し上げたのは、やっぱり大きな固まりとして採決をしていかないといけないので、減らすか減らさない、減らすか減らさないということで一番最初提案をしま

した。それは根拠がないわけじゃなくて、以前のこの前のときの協議会か委員会で、最後にそういうことを皆さんと確認をしたというふうに私は記憶をしております。その後、正直申し上げて、会議録を見たわけじゃありませんが、そういうふうに思っています。

そういうことなので、改めてここで皆さんにお諮りをいたします。大きな固まりとして、減らすか減らさないかということで、まずは採決をしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なしの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 御異議なしと認めます。

それでは、減らさないことに賛成の方の挙手を願います。

(賛成者挙手)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 多数と認めます。

次に、それじゃ、具体的な数について諮っていきます。減らさないという中にもいろんな数が出ましたので、再度この採決でお諮りをいたします。

郷右近さんは何人と言われたかな。

(22の声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 郷右近委員、何人でしたか。

○郷右近 修委員 具体的な数字で申し上げますと、22人を御提案申し上げたところです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 具体的な数字について諮っていきます。そして、その場合に、自分の考えと異なる結果に対しても、次善の策として表決をしていただくことでよろしいでしょうか。

(表決の声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 表決というのは、採決に加わっていただくということですね。

(減の人も声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) そうそう、そういうこと。わかりやすく言うと、減だった人も、次善の策として、自分の考えに一番近いところで加わっていただければありがたい。

○富永秀一委員 冒頭にもたしか申し上げたと思うんですが、いきなり、まず決まったら、そこからまたすぐ次の採決ということではなくて、やはり意見交換を経ないと、今まで減と言っていた人が、いきなり採決に、じゃ、何人にしますかというのは難しい。逆の結果もあり得たわけですけど。なので、やはりきちんと意見を聞いた上で、また採決にしなければ

ればいけないんじゃないでしょうか。

○近藤ひろひで委員 減と思われている人が、20だ、21、22に加わるわけにはいかないと  
思うんですね。だから、いわゆるいろんな数字を言っていて、その中の総数が20に  
達しない場合があるということでもいいんじゃないですか。いわゆる棄権というか、表現さ  
れないということ。

私は、今のまた、この20にするのか、22にするのかの討論的なことはもう必要はないか  
と思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤郁子委員。

○近藤郁子委員 今、委員長の采配によれば、ひろひで委員のおっしゃったようなこと  
なろうかと思えますけれども、ただ、皆さん現状維持ということは、20ということを表示  
しているの、その数は明らかだというふうには正直思ったりするので、そのとり方もち  
よっと難しいかなと思ったりもしています。人数を言っていくというのね。みんな現状維  
持というふうにおっしゃったんじゃないですかね。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） わかりました。

それでは、減らさないということについては、これ決定です。減らさないということに  
決定です。だけど、減らさないということの内容については、中身については、皆さん、  
個人的な討論としては現状維持が多かったですけれども、これはまだ最後の採決で変わる  
かもしれませんね。今は個人としてのあれですので、全体としては。どうでしょう。その  
ように考えますが。ですので、減らさないということについて、一番いぶかっているのは、  
減らすということのほうに賛成した方が、その次の採決に加わることができるかどうかと  
いうことなんです。

宮本委員、意見があったら言ってください。

○宮本英彦委員 減で賛成したんだから、現状維持もしくは増員に加わることはできない。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） わかりました。それじゃ、  
粛々と進めます。

それでは、減らさないということで行きますと、遠いほうからいきますね。

22人に賛成の方の挙手を願います。

（賛成者挙手）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 1人。

21はありませんでしたので……。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） あった。ないでしょう。

じゃ、現状維持の20名に賛成の方の挙手を願います。

(賛成者挙手)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) ちょっと待って。きちんと数を数える。

12名です。

それでは……。

どうぞ。鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 ここまでやったことなので、私はできれば委員長の意見も聞きたいと思えます。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 私も本音では言いたいですけど、立場上言えないというふうに伺っておりますので。この委員会を閉じてからなら言いますよ。

○富永秀一委員 方法論としては、別に副委員長に、委員長をかわって言うことはできますけど、それは例えば討論のときであればいいんですけど、ちょっと、この段階でどういう意味合いがあるのかというのはちょっと思いますが。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) これを閉じてからなら言いますよ。閉じてから言いたいですよ、逆から言ったら。

○鵜飼貞雄委員 閉じてからでいいです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) それでは、定数については現状維持というふうに決定をいたします。これは、言うなれば数の論理です、多数決。

もう一度確認します。議員定数については現状維持、20名とすることに決定をいたしました。確認です。

あと、まだ報酬についてありますので、きょう、これ本当に強行突破でやってしまうか、あす。

(発言する者あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 本会議、議案質疑、委員会付託が終わった後に、無理してでもやるかというふうに考えますが、この時間的な配分は、あすのことは正確には読み切れませんが、ちょっと待ってください。時間の配分をちょっと聞いてみますので、事務局のほうに。

あすの議案質疑、委員会付託についてはどうですか。

(発言する者あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) それでは、きょうこれで

終わりじゃなくて、暫時休憩にします。

午後零時 19分休憩

午後零時 22分再開

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それじゃ、休憩を解きます。

きょう、この後、短いお昼で、1時から2時、この1時間をこの特別委員会の時間に充てたいと思います。

○一色美智子委員 今、1時からと言われましたけど、当局は1時でいいんですか。1時間、きっちりってあげないと。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 当局、1時でよろしいですか。無理してください。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 終わりが2時ということでしょう。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ごめんなさい。皆さん、私語を慎んで。委員会はまだ閉じていませんので。委員会、開きましたので。

委員会、事務局の御意見を聞きます。1時でいい。事務局も無理を聞いていただいて、1時からでいいそうですので、1時から2時、短い昼食の時間というふうにしたいと思います。

（休憩の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 休憩。

午後零時 23分休憩

午後 1時 2分再開

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 休憩を解き、会議を続けます。

次は、議員報酬についてですが、先ほどの定数と同じような形で進めたいと思います。定数と同じようにやりますが、御異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 最初に、それでは意見を

聞く。その次に、時間が短いけれども、時間が30分じゃなくて、10分とか15分に区切って委員間討議、ありましたらね、ありましたら。それから討論、それから採決というふうにいきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、最初に意見を聞きます。皆さん、重々ここらは自分の意見は持っておりますので、先ほどと同じように、大きい会派から聞いていきます。

(発言する者あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 宮本委員。

○宮本英彦委員 いつもトップバッター。

私は単純明快、定数が現状であるなら、報酬も現状と。

ただ1つ、これから議員の報酬を上げたり下げたりするのは、報酬、審議会ありますよね、報酬等審議会。そこを経由して上がってくるようにというルールづくりを……。

(発言する者あり)

○宮本英彦委員 今、そうなっておるんですかね。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 次、それじゃ、後藤委員。

○後藤 学委員 結論からいうと、現状維持ということかなというふうに思っています。

ただ、個人的にというか、私と同じぐらいの年代の人はみんなそうですけれども、年金収入もあるわけですよ。それで、年金とこの報酬との関係が、報酬がふえると年金が減るとい、そういう関係になっておって、必ずしも報酬をふやしてもらってもうれしくない。逆に言うと、報酬を減らしてもらえば年金をもらえるから、減らしてもらってもいいという、減らしてもらってもいいという考えが私たちとしては、私としてはありますけれども、ただ、この報酬で生活をしている方もたくさんみえますので、現状維持ということにいたします。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 富永委員。

○富永秀一委員 これも議員定数と同様、やはり議員報酬を減らすということは、全体として議会の力を減らすことにつながるとお思いますので、議会改革だとは思っていません。

現在の報酬水準というのは、月々、手取りで30万円ちょっと、期末手当があるので何とかなっていますけど、家族が3人以上になると、別の収入源がないと難しいかなということで、つまり、現状でも報酬が抑えられていることで、議員になれる人をかなり絞っていると思います。そう考えると、多少上がってもいいのではないかと思いますけど、基本的には特別職報酬審議会と、あと期末手当の微調整というのは、人事院勧告に基づいて行われている当局にお任せすればいいかなと思っております。

定数・報酬の検討結果が出ていないということで、2回ほどこの微調整が据え置かれて

いますけど、この報酬についての検討が終わって、もし変更なしとなった場合には、この微調整の分は、遡及はしなくていいですが、それ以降は戻したほうがいいと思います。すなわち、平成28年3月28日に策定した豊明市議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の期末手当に関する特例を定める条例は廃止すべきだと思います。ただし、これは賛成する議員が少なければ、そこまではこだわっていません。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 これ、ちょっと確認なんですけど、先ほどの定数と同じ方法ということで、この後、希望があれば委員間討議、その後また個々ということなんです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） はい。

○ふじえ真理子委員 現時点では迷っています。前のときに、私、減らしてもいいという発言をしております。まず、ふやすことはあり得ないというのは変わってありません。これは本当に個々の、今までの人生経験、経歴で、今の金額の多い少ない、これからのなり手のこと、いろいろ本当に多様な意見があるのも重々承知していますが、今、順番で、今、4人目なんですけれども、皆さんの意見を伺いながら、現時点ではふやすことはあり得ない。どちらかという減らすという意見に傾いていますが、皆さんの意見を伺って、また後ほど意見したいと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤善人委員。

○近藤善人委員 私は、今のところ現状維持でいいと思っています。

終わります。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 私、個人的に言うと、ほかにも収入があるので、個人的には減でも構わないのかなと思っていますが、実際、自分が20代後半のときの年収で考えると、今の議会の報酬よりももらっておりました。なので、今後若手のなり手が出にくくなるかなというのを危惧していくと、現状維持でおさめていくのかなというふうに思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 毛受委員。

○毛受明宏委員 私も、結論からいうと、現状維持が妥当かなとは思いますが、いろいろ考えると、今だけでもいろんな意見がありますよね。多分、この後に、清水さんあたりになるとまた違う意見が出てくると思いますので、やはり年代層でいろいろありまして、やっぱり御事情はあると思います、いろんな面で。ですので、最低限、現状維持ということ。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤郁子委員。

○近藤郁子委員 報酬自体は、もともと報酬審議会で決まったものでというふうに思っ

おります。ふやすも減らすも、そちらのほうに私は委ねたいというふうに思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 三浦委員。

○三浦桂司委員 これは議会基本条例のほうにもうたっておりません。というのは、議員報酬については、市民の人の意見がそんなに多くありませんでしたので、皆さんの意見の言うとおりに、報酬審議会の意向もあるので、現状維持でいいと思いますが、この現状維持の意味が2つありまして、富永委員の言われる特例条例を廃止するのと、特例条例を維持するという考えがありますので、特例条例を廃止するというので、根拠は出ませんが、そういう考えです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 清水委員。

○清水義昭委員 いろいろ言おうと思いましたが、富永委員と全く同じなので省略します。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤ひろひで委員。

○近藤ひろひで委員 全然考えていなかったんですが、富永委員と全く同じ。人勧については、沿ってやっていくべきだと思います。特例条例をまた検討して、いわゆる廃止して、補填は要りませんので、1月なら1月から、人勧に沿った給与体系でいいと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 村山委員。

○村山金敏委員 それでは、私のほうから、まず結論ですが、現状維持でよろしいかと思えます。

ただし、現在の市の状況だとかそういったことを考えると、また末には、また考えなきゃいかんかなと思います。ルールだとかそういったもの、人勧もそのまま受け入れるべきと思っております。それと、あとは報酬審議会に諮って、ルールどおりに進めていただければよろしいかなと思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 一色委員。

○一色美智子委員 議員報酬につきましては、私は常々言っておりますけれども、自分たちの報酬を自分たちで決めるのではなくて、あくまでも報酬審議会に委ねるべきだと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤千鶴委員。

○近藤千鶴委員 私も一色議員の意見と同じで、議員の報酬は自分たちで決めるものではないと考えておりますので、人事院勧告に沿っていったほうがいいと思います。

（発言する者あり）

○近藤千鶴委員 報酬審議会、済みません。報酬審議会に沿っていきたいと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 早川委員。



○早川直彦委員 私も現状でいいと考えております。特に報酬については、やっぱり30代、40代とかの年代が、もし下げるとなると、そういうなり手が極端に減っていくと。年齢に随分でこぼこが出る可能性もあるということで、私は現状のままでいいと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 山盛委員。

○山盛さちえ委員 午前中の話し合いで力が抜けましたが、本当は議員定数を若干でも下げて、その分を報酬増のほうに回したらいいなという、そういう考え方の市民もみえたし、私もそれに近いような考え方を持っていましたので、できればそうしたかったですけれども、今のところ現状維持というような定数でありますので、回答保留というふうにしたいと思います。

ただ、決めるに当たっては、報酬審査会という話もありますけれども、首長も、その社会情勢だとかいろんなことを加味しながら、自分で何%削減とかってやっているの、議員も、そういった社会情勢、民間、それから市民の所得やら収入、そういったものも加味しながら判断していく部分も必要だろうというふうに考えます。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 蟹井委員。

○蟹井智行委員 私は、報酬はもう少し上げてもいいかなと思いますけれども、なかなかそれは理解されにくいと思うので、現状でいいと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 月岡委員。

○月岡修一委員 報酬に関しましては、思い起こしますと、平成7年の当選、初めて報酬をいただいたときに、余りの少なさに夫婦そろって泣きました。当時は、小学生、中学生3人、高校生と、こういう子どもがいましたので、30万そこそこではとても生活が成り立たないという、そんな時代でした。

そういったことがいい悪いは別にして、今で考えますと、清水議員が一番近いのかなと思うんですが、やはりもう少し時代に合った報酬でいいのかなと。つまり、周りの人から言わせると、やはりちょっと少ないんじゃないかなと。主張すべきことは主張し、一生懸命やっていただいた、その代償としての報酬なので、もう少しもらってもいいとは思いますが、そこまでの話はよく聞くんですが、なかなかそれを、じゃあ上げましょうという言葉も出しにくいので、残念ですけど、私は現状維持ということでおさめておこうと思います。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 郷右近委員。

○郷右近 修委員 議員になる権利を保障するという意味では、どんな社会的立場の人でもなれるようにという意味合いが1つと、やはり議員活動を旺盛にできるようにという意味で、報酬は引き上げるべきではないかと考えています。

ただ、一定の市民感情なども考慮すると、せめて手だてとしては、せめて今、凍結をしている、人事院勧告からの公務員の報酬増に合わせた議員の報酬増の凍結というのを解除してはどうかというふうに思っています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 各委員の意見は出そろいました。

続いて、先ほどと同じように、もっと意見が深まるかもしれませんので、委員間討議という形で行いたいと思いますが、30分もとってはちょっといけませんので……。

（やるかやらんか、ちょっと聞いてみなの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 一番最初に、定数と同じようにやると私言ってしまいましたので、それはそういう形をとらせていただきます。時間としては、もう本当最大15分。30分の予定ですが、そうすると2時ということが、皆さん先ほどお約束しましたので、最大15分ということによろしいですか。

（異議なしの声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） どうぞ、富永委員。

○富永秀一委員 30分とっても2時までには終わると思いますけど、皆さん、報酬については現状維持が大勢だったと思うんですけど、大勢だったと思うんですけど、論点としてあるとすれば、やはり特例条例を廃止するのか、そのままにするのかというところは結構意見が分かれる可能性はあるかなと思いますので、その点を議論してはどうかと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それじゃ、その議論を深めるために申し上げますと、特例条例が出ておまして、その特例条例は、要するに簡単に言うと期末手当ですね、何%か減らしておるわけですね。人勧のとおりじゃなくて減らしておるということで、それは条例で、豊明市議会議員として在職している者全員の在職期間が終了するまでの間に、要するにずっと、この期は、僕たちのこの期は全部これで行くよというような条例になっておるといふふうに思いますが、どうでしょうか。

（発言する者あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） だから、そのことを廃止するか、この期はそのままいってしまっ、この条例のとおり。これを変えらるとなると、また条例改正をしなくてはなりません。そのとおりにいくか、それとも、ここの文章で読むとおりで、戻すのは来期にするかという、そこの辺が論点というか、そういうふうになると思いますが、私は意見というよりも、問題の所在について皆さんに申し上げたということですので、よろしく願いいたします。

ひろひで委員。

○近藤ひろひで委員 富永委員がおっしゃってみえるのは、この報酬に対する討論プラス、その今の人勧の特例についても含めて討論されたらどうですかという提案だと思うんですが、違うんですか。

(討議、討議の声あり)

○近藤ひろひで委員 討議。ごめんなさい、討議。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 富永委員。

○富永秀一委員 という意味であれば、そのとおりです。討議を。

(委員間討議の声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 委員間討議ですよ。

じゃ、そのことについて御意見ありますか。

ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 私、先ほど、減らしてもいいんじゃないかという意見を持っている者として、その特例条例についての、今期中はその特例条例のままでいくということは、最低限私は求めたい。廃止はすべきではないという意見です。

これも本当に個々人の価値観によるので、いい悪いじゃないんですが、本当にいろんな市民の方のいろんな生活の仕方を見ていきますと、議員の報酬が今でも低いというふうには私の中では思えないので、仮にこの特例条例を今期中に廃止というのは、いかななものかなと私は思います。

(発言する者あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 今、委員間討議の時間で、論点は特例条例をどうするかというところに移っております。

そのほかありませんか。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 私も先ほど減らしてもいいかなということも発言したんですけど、じゃ、必ずしも30代、40代の方が、今、年間六百何がし、年収でもらっているかということ、それよりもらっていない人のほうが多いと思うんですよ。なので、私の個人的には、先ほど申し上げたとおり削減という考えはあるんですが、やはりなり手不足というのも、会社をやめて立候補して、当選するかどうかもわからない、その状況に立ち向かおうというのであれば、やはり今の現状の金額は維持していかないといけないと思います。

今の特例条例の件に出ていると思うんですけども、私は、今の条例は今期中の間、維持していてもいいのではないかと考えています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) そのほか。

郷右近委員。

○郷右近 修委員 先ほどお話をした、凍結していた報酬を解除してもいいんじゃないかというのは、その特例の条例の廃止の意味合いで発言したんですけど、最後の3月議会で合意のもとに廃止するという手だてで、というイメージで語っておりました。だから、再来年の3月議会のときに廃止をするというイメージで語っておりました。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 富永委員。

○富永秀一委員 一応、この条例は今期の間だけということになっていますので、そのままにすれば、あえて廃止をしなくても、来期には影響がないというふうに考えております。それで間違いないと思うんですが、先ほどもちょっとお話ししましたが、そもそもが、まだこの定数・報酬の特別委員会で話し合っていくと。その時点では特別委員会になっていなかったかもしれませんが、とにかくまだ話し合っていくということが前提で、今の時点で上げるべきではないということから特例条例ができましたので、それが結論が出た以上は、もう解除していいのではないかなと。つまり、条例を廃止していいのではないかなと思っておりますが、それは皆さんの御意見も伺った上で、私は最終的に判断したいと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか。

三浦委員。

○三浦桂司委員 特例条例について解除する場合、遡及してするのか、遡及せず来年の1月から解除するのかという、それも明確にしておいたほうがいいと思いますが。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 討議を続けます。

近藤郁子委員。

○近藤郁子委員 今、先ほどふじえ議員がおっしゃったのは、もともと減をするということが考えていらっしゃる方の中で、せめて減をしないんだったら今回はその少ないままでいきたいというのは、ちょっと違うような気がします。

それで、私の意見としては、特例条例を解除するならば遡及はしないと、がいいのではないかというふうに思っています。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほかありませんか。

○近藤ひろひで委員 私も、この定数・報酬委員会があるので、こういう特別な条例をつくったという理解をしております。ここで定数も報酬も一旦決めますので、特例条例の廃止をすればできると思う。で、遡及、いわゆる今までの分をとすることはもちろん要らないので、1月から、来年からという形でいいと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 委員間討議ですので、御

意見があったら。

村山委員。

○村山金敏委員 それでは、この特例条例なんですけど、今ずっと継続しておるわけですが、せっかく決めたものでありますし、今の現状を見ても、市長も10%減、副市長も10%減、そういった状況にあります。さあ、そこで我々だけが今解除できるかということ、ちょっと私は、私はですよ、厳しいかなと思っております。ですから、今期続けて、今期だけはね、続けて、それからの話ではないかなと思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） そのほか。

委員間討議。

（進行の声あり）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 委員間討議はもう出尽くしたというふうに思いますので、委員間討議を終わります。今の内容をよく理解して、次の討論につなげていただきたいと思います。

それでは、討論に入りますが、またいつものようにこちらから聞いていきます。

宮本委員。

○宮本英彦委員 先ほど言いましたように、定数が現状であるし、それと定数が現状で、定数が決まった途端に特例条例を廃止して、速やかにもとへ戻すというのは、いかにもこれは市民の理解は得られんと私は思います。だから、私は、報酬も現状維持、それから特例も期限まで粛々と継続して、自動的に切れますので、その時点でまた来期考えればいいと。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 後藤委員。

○後藤 学委員 報酬現状維持、それから特例は今期中は継続ということでいいと思います。

ただ、先ほどちょっと言い漏らしましたので、若干申し上げますけれども、私は、議員がもらうその報酬、報酬といいますか収入として、現状維持でいいというふうに考えておりますけれども、この前のたしか陳情ですかね、陳情が出たときに、報酬を幾らか減らして、それで政務活動費をふやすと。ちゃんと議員の活動をしておれば当然経費がかかるわけですので、それは活動した人は政務活動費でもらえると。総額としては変わらないけれども、活動すればちゃんともらえるけれども、活動しなければもらえないというような、そういう仕組みを取り入れたらどうかというようなことが、たしかあの中に書いてあったと思います。私はそういうことは考えていくべきだろうというふうに思っていますので、政務活動費も含めたトータルで現状維持という、そういうことを先ほどちょっと言い漏ら

しましたので、申し添えます。

以上です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 富永委員。

○富永秀一委員 報酬については現状維持で、特例に関して、全員が意見をおっしゃらなかったもので、何とも全体はわかりませんが、今のところは廃止という方向で考えております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ふじえ委員。

○ふじえ真理子委員 先ほど鵜飼委員の中で、30代、40代がこの報酬で必ずしも云々という話があったときにうなずいてしまったんですが、私は、減らすといった場合、じゃ、どれだけをとということ、今までの皆さんの御意見を聞いていると、どうも保留の方もみえますが、減らすという方は、今、私1人、現時点では聞いていますと私1人だけなので、このままでいくと現状維持になっていくのかなと。その場合のその特例条例のことをどうするかという部分で、この後の採決をなされていくんですよね。なので、私としては、いろんな民間だとか、いろんな社会情勢だとか加味すると、減らすほうというふうで立場をとります。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） じゃ、ふじえ委員は減らすという意見ですか。討論ですね。

○ふじえ真理子委員 はい。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤善人委員。

○近藤善人委員 報酬も特例条例も現状維持ということだと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 宮本委員の意見と同様です。現状で、特定条例も今期いっぱいまでです。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 毛受委員。

○毛受明宏委員 私も同じなんですけど、現状維持の今期中ということ。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤郁子委員。

○近藤郁子委員 現状維持というのは、報酬審議会に委ねたいということの結果、やっぱり現状維持ということになります。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 三浦委員。

○三浦桂司委員 私も同様です。

（発言する者あり）

○近藤郁子委員 特例に関して、それは議員で決めたことなので、すごく今ちょっと、どうしようか、まだ決断ができていません。

- 豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 三浦委員。
  - 三浦桂司委員 私は毛受議員のほうと全く同じです。
  - 豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 清水委員。
  - 清水義昭委員 報酬については現状維持で、特例条例については、こういう議論がなされるためにとめましょうというようなことだと記憶しておりますので、特例条例は廃止ということです。
  - 豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤ひろひで委員。
  - 近藤ひろひで委員 清水議員と同じです。
  - 豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 村山委員。
  - 村山金敏委員 私は、報酬についてはこのまま、特例については先ほど申し上げたとおりで、今期中はということ考えております。
  - 豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 次、一色委員。
  - 一色美智子委員 先ほども申し上げましたけれども、あくまでも報酬に関しては報酬審議会に委ねるべきであるということであります。今の段階では一応現状維持ということをお願いいたします。
- 特例条例に関しましては、今期いっぱいのを今解くのもいかなものかなと思いますので、皆さんの意見がそちらのほうであるならばそれでもいいんですけれども、今期限りにしておいたほうが、今期中はということにしておいたほうがいいと思います。
- 豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 近藤千鶴委員。
  - 近藤千鶴委員 一色議員と同じ意見で、報酬審議会に委ねることと、特例は今期中、そのままということ。
  - 豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 早川委員。
  - 早川直彦委員 私も現状維持で、特例はそのままです。
  - 豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 山盛委員。
  - 山盛さちえ委員 早川議員と一緒にです。
  - 豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 蟹井委員。
  - 蟹井智行委員 報酬も特例も現状維持です。
  - 豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 月岡委員。
  - 月岡修一委員 報酬は現状維持です。特例も、みずから決めたことなので、やはり今期はそれを守って、現状維持ということをお願いいたします。
- 以上です。
- 豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 皆さん、討論していただ

きました。

(忘れてる、忘れてるの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 大変失礼いたしました。  
郷右近委員。

○郷右近 修委員 報酬の引き上げは望ましいと思うんですが、現行での決定事項としては、現状の報酬を維持して、あと、特例の条例に関する取り扱いとしては、この今の任期中いっぱいまで有効にするという立場です。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 全員討論していただきました。

採決の方法ですが、いかがいたしましょうか。ふやすか減らすかという、定数のときはそういう問いかけをしましたが、3択で、さっともうここで決めたいと思いますが、いけませんか。ふやす、現状維持、減らす。

(発言する者あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 失礼しました。大変失礼の積み重ねですが、失礼しました。

それでは、現状か減らすか、2択ですので、ひとつよろしくお願ひします。報酬についてです。特例については、また後やります。

報酬について、現状を支持するというか、現状でよいという人、挙手願ひます。

(賛成者挙手)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 絶対多数です。

それから、減らすという人、ちなみに。

(賛成者挙手)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 1人。

それでは、いろんな角度から意見が出ましたけど、この今の特例条例、期末手当等について減らしているのをもとに戻すかどうかという問題ですが、これも現状と、もとに戻すという意見と、現状、現状というのは、この期が終わるまではそのまま続けるよというのが現状ですね。現状と、もとに戻すというのです。

(条例維持か廃止かとの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） わかりました。

それでは、くどうようですが、間違えないために言います。条例を廃止するということは、戻すということですね。

それでは……。



○ふじえ真理子委員 先ほどの定数のときのように、減らすという立場であるので、この特例の賛否には……。

(関係ないの声あり)

○ふじえ真理子委員 関係ないですか。参加できますか。

(参加できますの声あり)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) それでは、採決をします。

この条例、くどいようですが、条例を廃止するということは、特例を廃止すると、もとに戻るという意味ですよ。

じゃ、条例を廃止することに賛成の方、挙手願います。

(賛成者挙手)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 少数です。

ちなみに、今のままこの条例を継続する、この期が終わるまで継続するという方、手を挙げていただきます。

(賛成者挙手)

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 絶対多数です。

これで、報酬についてはこれで終わりです。

続いて、次に行きます。議題の2、その他に入ります。

この際、委員より何かありますか。

鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 手短かにいきます。

こういった形で1年間、皆さんで話をして、ここまで進んでまいりました。恐らく、この結果をみずからの会報ないしブログ等々で発信されると思うんですが、それは一向に私は構わないと思っております。この今、豊明市議会の現状を市民の皆様にお伝えするためにやるわけですから。

なんですけど、1つだけお願いしたいのが、委員おのおの自分の持論を持って、今回この場に臨んでおります。ですので、端的に、こういった表決であった、私はこういうふうと思うのではなく、おのおのの委員が持っているその意見もちゃんと市民の方に伝わるような形で情報発信していただきたいと思いますが、皆さん、どう思われますでしょうか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長(杉浦光男議員) 御意見ありますか。

どうぞ。

○村山金敏委員 私もそのとおりでありまして、発信される方の一字一句変わってしまいますと、意味合いが違ってくる場合も結構ありますものですから、もしあれされるのであ

れば、発言に沿ったことで、文字も発言に沿ったことでしっかりと書いていただきたいか  
なと思っております。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ひろひで委員。

○近藤ひろひで委員 私も鵜飼議員の意見に賛成です。議員個々の意見を発信していただ  
きたい。誰々が、議員以外のことは発信しないでいただきたいと思います。数は別ですよ。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 後藤委員。

○後藤 学委員 趣旨がよくわからないんですけど、議員個々の意見を書くということは、  
それを書かなければこの記事を書いてはいけないというような、そういう意味なのかどう  
なのか。会報のスペースの都合もありますので、賛否が何対何だただけで終わることも  
あるだろうし、こんな意見が出ましたというふうには、名前を言わずに、こんな意見とこん  
な意見とこんな意見がありましたという書き方もあるでしょうし、必ずしも議事録みたい  
に、誰がどんなことを言ったかというふうには、書かなきゃいけないというふうにここで  
縛るのは私はおかしいと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 よく偏向報道、情報操作、いろいろと言われることもありますが、今回  
の件に関しては非常にセンシティブな話であります。なので、結局市民の方がどういうふ  
うに捉えられるのかというのは、我々委員一人一人、自分の思いをちゃんと持ってここに  
臨んで、その発言をされました。そういった意図も酌んでいただかないことには、違う形  
でとられてしまうんですね、市民の方が。それは非常にまずいと思います。なので、その  
あたりだけお約束いただきたいなと私個人的には思っております。それを皆様の、どうい  
うふうに思われているのか、もしあれであれば採決をとっていただければと思いますが。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それじゃ、最後、山盛委  
員、最後。

○山盛さちえ委員 そんなふうに決めないでよ。まだ時間あるんだから。

済みません。やっぱりよくわからなくて、自分の考えを自分の会報とかブログとかに結  
果とともに書くということは、自分の判断で、自分の言葉で書くので全然いいんですけど、  
ほかの18名の方が個々にどんなお考えであったかということ、正直、会議録もない状態  
で正確に書くということは不可能ですよ。それを承知していらっしゃる上で言ってい  
らっしゃるんですか。要するに、後藤さんのさっきの質問とか問いかけと一緒にですけど、  
要するに書くなと言っているのと同じように聞こえるんですけど、もう一回ちょっと教え  
てください、考えを。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 鵜飼委員。

○**鵜飼貞雄委員** きょうもある程度、どういう委員がどういう話をされたかというのは、ある程度は多分皆さん頭の中に入っていると思うんですよね。

(ある程度でいいの声あり)

○**鵜飼貞雄委員** ええ。なので、結局のところ、結果だけで、私はこう思うだと、ほかの委員が持っている持論であるとかそういったものは、全て正しい形では伝わらない。それはあくまで本当に危険な話だと思います。なので、そのあたりは大人として、ある程度、常識の範囲内でやっていただければと思うんですが。

○**豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）** 宮本委員。

○**宮本英彦委員** 私もよくわからんんだけど、自分の考えを、当然、私はこういう考えで、こういう15名を提案しました。結果的に賛成多数で現状維持になりましたと。要するに経過を、やっぱり自分の意思はきちっと書かんと……。

(それは構わないの声あり)

○**宮本英彦委員** これはいいんだよね。その、だめだというか、これは遠慮してほしいというのは、もう少しぶっちゃけた話になる。

○**豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）** ちょっと待ってくださいよ。今、委員会ですので、決定事項でどうのこうのやっておるということではありませんが、皆さんの意見を、その他ということで皆さんの意見を聞いて、この今まで決まったことがうまく市民に伝わるようにという前提があって、皆さん発言していると思いますので、今この会でやっております。そういうことも含めて述べていただきたいというふうに思います。

近藤郁子委員。

○**近藤郁子委員** そのことについては、議会だよりでも報告はしていくことになろうかと思えます。議会だより以上に御自身の会報とかでされる場合は、御自身の考えはどうぞ御自由にお書きいただくのは自由ですが、ほかの委員がこんなことを言ったとかそういったこと、今、先ほど山盛さんが、議事録もないのに正確ではないというふうにおっしゃったならば、正確でないことはやはり載せていただくのはやめていただきたいというふうに私は個人的に思います。

○**豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）** 山盛委員。

○**山盛さちえ委員** 御意見としてはね、それに私が賛同したかどうかは別ですよ、御意見としては、自分のことは書いてもいいし、結果も書いてもいいけど、ほかのそれ以外にどのような意見があったということについては、一言一句正しくない限りは書くなと、そういうことですか。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 鵜飼委員。

○鵜飼貞雄委員 どうして私がこういう話をしたかという、過去の、今、今期ではなくてですよ、過去のこの豊明市議会の生い立ちじゃないですけどね、ああいうごたごたを見ていると、非常に見苦しいです。なので、そういったことが起きないように、やはり一言一句間違っ書かないでくださいとは言いませんが、我々も我々の意見を持ってこういった結果になったわけなので……。

（一緒だよねの声あり）

○鵜飼貞雄委員 それはそうですけど、そういったところもちゃんと頭の片隅に置いておくっていただきたいなというところにとめておきます。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 富永委員。

○富永秀一委員 鵜飼委員が懸念されていることもわかります。要するに、前の期は、やはり見えて、感情的な対立をしているのではないかというふうに見えていたところがありますので、そのようなことになることを多分懸念されているんだと思います。それは市民の失望を招きますので、そういうことではなく、御自分の御意見というのは当然書く、表現の自由がありますから、書いて、結果もいいんですけど、ほかの方の意見を書くときに、曲解されないようにとか、感情的な表現にならないようにとか、恐らくそういうことだと思います。それは信じておりますけれども、そういうことにならないようにということだと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） わかりました。

皆さん、注目してください。

今、意見が出ましたが、ここで決定というようなね、正しい客観的なものが出て、このことについて賛成か反対か、これで決定だよというふうにはいきませんので、ある程度努力目標的な部分もあるし。だけど、最低限度の条件としては、この会が始まったときに、非常に対立する構図があるじゃないですか、このそのものについては、定数だから。俺は15だ、俺は20だという、ここに対立というか、違うものがあるから、自分の意見が全く客観的で正しいという立場で、相手をペしゃんとたたくようなものはいかかなものかというふうには僕自身は思いますし、皆さんもそういう視点でしゃべっているんじゃないかな。自分の意見を述べるのは述べんと、自分の会報になりませんから、自分の意見はきちんと述べてください。そのときに、他との関係については非常に神経を使っていたきたいと。どうでしょう、そういうことで。

山盛委員。

○山盛さちえ委員 そういうことからいうと、先ほどの定数のところの、それぞれの個人

の一人一人の意見を言った発言の中に、これ、三浦議員の私のメモですよ。その削減の動きが、市民のためなのか、選挙に有利だから削減をうたっていたのではないかというような意見がありました。それは確かに言われました。

とすると、私は削減、人数は言いませんでしたが、削減するということを選挙のときに言いましたので、それを選挙に有利だから言ったんじゃないかということを書かれるととか言われると、確かに発言では出ましたが、それは事実ではないので、そういうのは非常に困りますし、この場でそういう意見を言われることも、正直私は、えっ、ここでそれ言うかって思いました。なので、私が何を言いたいかわかんと思いますけど、三浦さん、そういうこともね、お願いされるならば、自分も自粛してくださいね。お願いします。

**○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）** それでは、皆さん、意見も出尽くしましたので、本当に今出た意見の真意を酌み取っていただいて、よろしく願いいたします。

以上をもちまして……。

**○後藤 学委員** この経過について、先ほど議会だよりで載せるとかというような話もありましたけれども、以前にパブリックコメントの話も出ておりました。それで、パブリックコメントは、条例を改正したときだけにやらなきゃいけないということではないというふうに思っているということを私そのときにも言いましたけれども、これだけ長い間議員が全員で議論してきて、それで変えないという結論を出したんなら、これまでの経過、きょう委員会の最初に委員長が言われたように、これまでの経緯と、そういうふうになったことについて市民がどう思っているかというパブリックコメントは私はやるべきだと思いますけれども、その話をここできちっとしていただきたいと思います。

**○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員）** その他というところで、後藤委員からそういう提案があったということですね。提案というか、発言があったということですね。

このことについてどう思われますか。意見のある方。

山盛委員。

**○山盛さちえ委員** 新しい試みなので、ぜひやったらいいかなと思います。先ほどの市民が書いてくださったアンケートが、たくさんの方が参加されているわけじゃないので、偏ったというか、一部の方のアンケートの御意見だというように捉えている人もいらっしゃるかと思います。であるならばなおのこと、この結論について市民にしっかり公表して意見をいただくというのは、とても重要なことだというふうに思います。

委員会の視察に伺ったときに、ついでにというか、話で出てきたんですが、議員定数の、

議会が決めるに当たって、議会だよりにアンケートを差し込んで配って、ファクスなり電話なりメールでもいいんですが、御回答いただく、そういったアンケート方式をやりましたというのを聞いて、ああ、これを先に聞いておいたらよかったなと思ったぐらいなんです、そういうこともお金をかけずにできたりすると思いますので、ぜひ私はやってみたらいいかな。これで議員定数のことについて議会で議論するのは本当に最後になるような、そういう締めくくりができたらいいなと思います。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） ひろひで委員。

○近藤ひろひで委員 この委員会ですらいろいろ議論してきて、このきょう出た結論は安直に決まったことではないので、結果として現状維持、報酬についても定数両方とも現状維持ということなので、もちろん、こういうことが決まりましたというのはもちろん示さなければいけないんですが、パブコメという形では必要ないと思います。これはそれぞれ、議員それぞれ、パブコメ必要、不必要という意見があると思いますので、決をとってください。

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） いろんな考えはあると思いますが、最後の手段として、やっぱり決をとって進んでいかなくてはなりませんので、決をとります。

じゃ、パブコメをする必要があると思われる方、挙手願います。

（賛成者挙手）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） それじゃ、必要ないと思われる方。きちっと。

（賛成者挙手）

○豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員長（杉浦光男議員） 11対8で、パブコメをする必要はないというふうに決まりました。

以上をもちまして、豊明市議会議員定数・報酬検討特別委員会を閉会といたします。

午後1時49分閉会